

基本計画書

基本計画											
事項	記入欄						備考				
計画の区分	学部設置										
設置者	ガッコウホクニシヒガシニッポンガクエン 学校法人 東日本学園										
大学の名称	ホッカイドウリョウカク 北海道医療大学 (Health Sciences University of Hokkaido)										
大学本部の位置	北海道石狩郡当別町字金沢1757番地										
大学の目的	北海道医療大学は、教育基本法及び学校教育法並びに建学の理念に基づき、深く専門の学術を教授・研究し、有能かつ良識ある専門職能人を養成して、社会の発展に寄与するとともに、国民の保健、医療、福祉に貢献し、あわせて国際文化の向上を図ることを目的とする。										
新設学部等の目的	リハビリテーションを必要とするあらゆる人々の人権を尊重できる専門職能人として、多職種と連携しながら、科学的根拠に基づいた質の高いリハビリテーションサービスを実践し、地域や国際社会に幅広く貢献できる人材を養成する。										
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地			
	リハビリテーション科学部	年	人	年次	人		年 月 第 年次				
	理学療法学科	4	80	2年次 5	335	学士 (理学療法学)	平成25年4月 第1年次 平成26年4月 第2年次	北海道石狩郡当別町字金沢1757番地			
	作業療法学科	4	40	2年次 5	175	学士 (作業療法学)	平成25年4月 第1年次 平成26年4月 第2年次	同上			
	計		120	10	510						
同一設置者内における （定員の移行、 名称の変更等）	北海道医療大学 収容定員変更 理学療法学科 (80) 2年次編入学定員 (5) 収容定員 (335) 作業療法学科 (40) 2年次編入学定員 (5) 収容定員 (175) ※24年6月変更申請予定										
教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
			講義	演習	実験・実習	計					
	リハビリテーション科学部 理学療法学科	68 科目	32 科目	8 科目	108 科目	128 単位					
リハビリテーション科学部 作業療法学科	66 科目	34 科目	8 科目	108 科目	128 単位						
教員	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等		
				教授	准教授	講師	助教	計		助手	
	新設	分	リハビリテーション科学部 理学療法学科		人	人	人	人	人	人	人
			作業療法学科		8 (7)	0 (0)	4 (2)	1 (1)	13 (10)	0 (0)	21 (10)
			計		4 (3)	2 (1)	5 (4)	1 (1)	12 (9)	0 (0)	18 (10)
	組織の概要	既設	計		12 (10)	2 (1)	9 (6)	2 (2)	25 (19)	0 (0)	39 (20)
			薬学部 薬学科		20 (20)	15 (15)	21 (21)	17 (17)	73 (73)	0 (0)	15 (15)
			歯学部 歯学科		27 (27)	14 (14)	27 (27)	42 (42)	110 (110)	35 (35)	141 (141)
			看護福祉学部 看護学科		11 (11)	10 (10)	12 (12)	14 (14)	47 (47)	0 (0)	16 (16)
			看護福祉学部 臨床福祉学科		8 (8)	5 (5)	7 (7)	3 (3)	23 (23)	0 (0)	36 (36)
心理科学部 臨床心理学科			8 (8)	4 (4)	5 (5)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	11 (11)		
心理科学部 言語聴覚療法学科			7 (7)	5 (5)	1 (1)	6 (6)	19 (19)	1 (1)	17 (17)		
個体差医療科学センター			2 (2)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)		
個体差健康科学研究所			0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)		
計		83 (83)	57 (57)	77 (77)	83 (83)	300 (300)	36 (36)	236 (236)			
合計		95 (93)	59 (58)	86 (83)	85 (85)	325 (319)	36 (36)	275 (256)			

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		52 人 (52)	49 人 (49)	101 人 (101)					
	技 術 職 員		8 人 (8)	9 人 (9)	17 人 (17)					
	図 書 館 専 門 職 員		2 人 (2)	15 人 (15)	17 人 (17)					
	そ の 他 の 職 員		53 人 (53)	61 人 (61)	114 人 (114)					
計		115 人 (115)	134 人 (134)	249 人 (249)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計		歯学部附属歯科衛生士専門学校と共用 大学全体			
	校 舎 敷 地	64,222.53㎡	1,650.00㎡	0㎡	65,872.53㎡					
	運 動 場 用 地	27,800.00㎡	0㎡	0㎡	27,800.00㎡					
	小 計	92,022.53㎡	1,650.00㎡	0㎡	93,672.53㎡					
	そ の 他	57,315.74㎡	0㎡	0㎡	57,315.74㎡					
合 計	149,338.27㎡	1,650.00㎡	0㎡	150,988.27㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
		72,209.57㎡ (72,209.57㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	72,209.57㎡ (72,209.57㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	43室	34室	44室	1室 (補助職員0人)	2室 (補助職員0人)	大学全体				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		リハビリテーション科学部		16 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	リハビリテーション科学部	257,332 [81,104] (242,157 [79,010])	2,869 [1,118] (2,869 [1,118])	4,185 [3,270] (4,185 [3,270])	6,244 (5,974)	98,020 (97,133)	2,208 (2,208)			
	計	257,332 [81,104] (242,157 [79,010])	2,869 [1,118] (2,869 [1,118])	4,185 [3,270] (4,185 [3,270])	6,244 (5,974)	98,020 (97,133)	2,208 (2,208)			
図 書 館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		4,866.96 ㎡	437 席		275,000 冊					
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体			
		1,746.49 ㎡	屋外野球場・サッカー/ラグビー場・テニスコート (27,800㎡) フィットネスセンター (411㎡)							
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	届出学部全体 共同研究費については大学全体 図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コストを含む)を含む。
		教員1人当り研究費等		451千円	447千円	447千円	448千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		23,000千円	23,000千円	23,000千円	23,000千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	4,200千円	2,600千円	2,600千円	2,600千円	2,040千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	246,402千円	123,304千円	8,314千円	91,077千円	20,000千円	— 千円	— 千円		
	学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	リハビリテーション科学部 理学療法学科	1,325 千円	1,325 千円	1,325 千円	1,325 千円	— 千円	— 千円			
	リハビリテーション科学部 作業療法学科	1,325 千円	1,325 千円	1,325 千円	1,325 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、雑収入等							
既設大学等の状況	大 学 の 名 称	北海道医療大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	薬学部 薬学科	6	160	3年次 10	950	学士 (薬学)	1.14	昭和49年度	北海道石狩郡当別町字金沢1757番地	
	歯学部 歯学科	6	80	—	580	学士 (歯学)	0.69	昭和53年度	同上	
	看護福祉学部 看護学科	4	100	3年次 9	389	学士 (看護学)	1.02	平成5年度	同上	
	臨床福祉学科	4	80	3年次 9	369	学士 (臨床福祉学)	0.84	平成5年度	同上	
	心理科学部 臨床心理学科	4	75	3年次 2	277	学士 (臨床心理学)	1.17	平成14年度	北海道札幌市北区あいの里2条5丁目	
	言語聴覚療法学科	4	60	3年次 10	238	学士 (言語聴覚療法)	1.26		同上	

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称 個体差健康科学研究所 目的 本学の行動指針「21世紀の新しい健康科学の構築」に基づき、文理統合による個体差健康科学の確立を目指し、併せて人類の健康と医療の発展に寄与することを目的とする。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成14年1月 規模等 土地：524.00㎡ 建物：808.45㎡</p>	
	<p>名称 動物実験センター 目的 研究・教育の用に供するため、実験動物を飼育管理し、実験実施者に対して、実験動物に関する情報を提供することを目的とする。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 昭和63年12月 規模等 土地：624.00㎡ 建物：1,866.70㎡</p>	
	<p>名称 アイソトープ研究センター 目的 放射性同位元素並びに放射線関係の施設及び機器等を総合的に管理し、これを諸分野の研究・教育のための共同利用に提供することを目的とする。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 昭和57年3月 規模等 土地：1,650.00㎡ 建物：1,239.09㎡</p>	
	<p>名称 個体差医療科学センター 目的 地域医療の充実に貢献するため、医科学関連分野における研究を行うことを目的とする。 所在地 北海道札幌市北区あいの里2条5丁目 設置年月 平成17年7月 規模等 土地：6,392.73㎡ 建物：9,702.49㎡</p>	
	<p>名称 北海道医療大学病院 目的 歯学教育等に係る臨床・研究の場として機能するとともに、歯科及び内科の診療を通じて地域医療の向上に寄与することを目的とする。 所在地 北海道札幌市北区あいの里2条5丁目 設置年月 平成17年7月 規模等 土地：6,392.73㎡ 建物：9,702.49㎡</p>	
	<p>名称 歯科内科クリニック 目的 歯学教育等に係る臨床・研究の場として機能するとともに、歯科及び内科の診療を通じて地域医療の向上に寄与することを目的とする。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成17年7月 規模等 土地：3,848.00㎡ 建物：7,772.48㎡</p>	
	<p>名称 心理臨床・発達支援センター 目的 心理臨床、発達支援に関する研究・研修・調査を行うとともに、本学大学院心理学研究科臨床心理学専攻修士課程学生の心理臨床実習の場としての機能を果たすことを目的とする。 所在地 北海道札幌市北区あいの里2条5丁目 設置年月 平成15年6月 規模等 建物：141.9㎡</p>	
	<p>名称 薬学部附属薬用植物園 目的 薬学教育の一環として、学生が薬用植物や生薬についての生きた知識を学ぶとともに、研究に資することを目的とする。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 昭和60年9月 規模等 総面積：2,558.00㎡ (内、温室341.46㎡)</p>	
	<p>名称 北方系生態観察園 目的 日本薬局方に記載されている薬用植物をはじめ、様々な野鳥、昆虫、小動物などの観察園として活用することを目的としている。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成13年6月 規模等 総面積：153,000㎡</p>	
	<p>名称 北方系伝統薬物研究センター 目的 絶滅危惧種の栽培法の確立と遺伝子保存を進めるとともに、アイヌが伝承してきた北方系伝統薬物の生物多様性解析を通じて未知の薬効成分を探索して創薬に結びつけることを目的としている。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成21年8月 規模等 土地：342.00㎡ 建物：552.60㎡</p>	

学校法人東日本学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成24年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成25年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
北海道医療大学					北海道医療大学				
薬学部 薬学科	160	10	1,000	→	薬学部 薬学科	160	10	1,000	
歯学部 歯学科	80	-	480		歯学部 歯学科	80	-	480	
看護福祉学部 看護学科	100	9	418		看護福祉学部 看護学科	100	9	418	
臨床福祉学科	80	9	338		臨床福祉学科	80	9	338	
心理科学部 臨床心理学科	75	2	304		心理科学部 臨床心理学科	75	2	304	
言語聴覚療法学科	60	10	260		言語聴覚療法学科	60	10	260	
					<u>リハビリテーション科学部 理学療法学科</u>	<u>80</u>	<u>5</u>	<u>335</u>	学部の設置(届出)
					<u>作業療法学科</u>	<u>40</u>	<u>5</u>	<u>175</u>	学部の設置(届出)
北海道医療大学大学院					北海道医療大学大学院				
薬学研究科 生命薬科学専攻(M)	3	-	6	→	薬学研究科 生命薬科学専攻(M)	3	-	6	
薬学専攻(D)(4年制)	3	-	12		薬学専攻(D)(4年制)	3	-	12	
歯学研究科 歯学専攻(D)	18	-	72		歯学研究科 歯学専攻(D)	18	-	72	
看護福祉学研究科 看護学専攻(M)	15	-	30		看護福祉学研究科 看護学専攻(M)	15	-	30	
看護学専攻(D)	2	-	6		看護学専攻(D)	2	-	6	
臨床福祉学専攻(M)	5	-	10		臨床福祉学専攻(M)	5	-	10	
臨床福祉学専攻(D)	2	-	6		臨床福祉学専攻(D)	2	-	6	
心理科学研究科 臨床心理学専攻(M)	10	-	20		心理科学研究科 臨床心理学専攻(M)	10	-	20	
臨床心理学専攻(D)	2	-	6		臨床心理学専攻(D)	2	-	6	
言語聴覚療法学専攻(M)	5	-	10		言語聴覚療法学専攻(M)	5	-	10	
言語聴覚療法学専攻(D)	2	-	6		言語聴覚療法学専攻(D)	2	-	6	
北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校					北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校				
歯科衛生科(3年制)	50	-	150	→	歯科衛生科(3年制)	50	-	150	

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要															
(リハビリテーション科学部理学療法学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全 学 教 育 科 目	基礎ゼミナール（コミュニケーション実践論）	1前	1				○		4		2			兼5	
	文章指導（日本語の表現）	1前	1				○		4		1	1		兼5	
	人間と思想（心理学）	1後		2		○								兼1	
	人間と思想（死生学入門）	1前		2		○								兼1	
	人間と思想（哲学入門）	1前		2		○								兼1	
	人間と社会（医療の経済学）	1後		2		○								兼1	
	人間と社会（医療の法学）	1後		2		○								兼1	
	人間と社会（国際社会福祉論）	3前		2		○								兼3	オムニバス
	人間と文化（文化人類学）	1前		2		○								兼1	
	人間と文化（環境の歴史）	2後		2		○								兼1	
	人間と文化（国際文化比較論）	2前		2		○								兼3	オムニバス
	自然と科学（生命科学）	1前	2			○								兼1	
	英語Ⅰ（オラル・イングリッシュA）	1前	1					○						兼3	
	英語Ⅰ（オラル・イングリッシュB）	2前	1					○						兼3	
	英語Ⅱ（英語A）	1後		1				○						兼1	
	英語Ⅱ（英語B）	2後		1				○						兼1	
	中国語（中国語）	1前		1				○						兼1	
	韓国語（韓国語）	1後		1				○						兼1	
	フランス語（フランス語）	2後		1				○						兼1	
	ドイツ語（ドイツ語）	2前		1				○						兼1	
	情報処理演習（情報処理演習）	1前	1					○						兼1	
	統計学（基礎統計学）	3前	2			○								兼1	
	健康・運動科学演習（運動科学演習）	1通	2					○		1				兼1	
	自然科学入門（基礎数理）	1前	1					○						兼1	
	自然科学入門（物理学）	1後	2			○								兼1	
	自然科学入門（生物学）	1後		2		○								兼1	
	自然科学入門（化学）	1後		2		○								兼1	
	個体差健康科学（個体差健康科学）	1前	2			○								兼1 5	オムニバス
	医療倫理（医療倫理）	1後	2			○								兼1	
	地域連携（地域包括ケア演習）	3前			1			○		4		1	1	兼5	
	地域連携（メディアカフェをつくるⅠ）	2前			1			○						兼5	集中
	多職種連携（多職種連携論）	3前	1					○		4		2		兼5	
小計（32科目）	—	—	19	30	0	—	—	—	8	0	3	1	0	兼47	
専 門 基 礎 科 目	解剖学Ⅰ	1前	1			○			1					兼2	オムニバス
	解剖学Ⅱ	1後	1			○			1					兼2	オムニバス ※演習
	解剖学実習	2前	1					○	1					兼2	
	生理学Ⅰ	1前	1			○								兼1	※演習
	生理学Ⅱ	1後	1			○								兼1	※演習
	生理学実習	1後	1					○	1		2	1		兼6	
	運動生理学	2前	1			○					1				※演習
	運動学Ⅰ	1後	1			○			1						※演習
	運動学Ⅱ	2前	1			○			1						※演習
	運動学実習	2後	1					○	2		2	1		兼3	
	老年学	2前	1			○								兼2	オムニバス
	人間発達学	2前	1			○			1					兼1	オムニバス
	医学概論	1前	1			○								兼1	
	病理学	2前	1			○								兼2	オムニバス
	整形外科学	2前	2			○								兼1	
	内科学	2後	2			○								兼4	オムニバス
	神経学	2後	2			○								兼1	
	小児科学	2後	1			○								兼1	
	精神医学	2前	2			○								兼1	
	病態運動学	2後	1			○			3						オムニバス ※演習
	高次脳機能障害学	2後		1		○								兼1	
	臨床心理学	2後	1			○								兼1	
	薬理学	2後		1		○								兼1	
公衆衛生学	2後	1			○								兼2	オムニバス	
栄養学	2後		1		○								兼1		
リハビリテーション概論	1前	2			○			1					兼2	オムニバス	
保健医療福祉論	3前	1			○			1					兼3	オムニバス	

	障がい者当事者論	2前	1				○		1					兼1	オムニバス
	作業療法概論	1前		2			○							兼8	オムニバス
	作業適用学	1後		2			○							兼8	オムニバス
	積雪寒冷地の生活と諸問題	3通	1				○		1						
	小計 (31 科目)	—	31	7	0		—		7	0	3	1	0	兼32	
専 門 科 目	理学療法概論	1前	2				○		2						オムニバス
	基礎理学療法学	1後	2				○		5						オムニバス
	理学療法管理・運営論	4後	1				○		1						
	理学療法研究法	3前	2				○		1						
	理学療法英文原著読解	2通	2					○	8		4	1			
	医療コミュニケーション	2後	1					○	7		4	1			
	理学療法基礎評価学Ⅰ	2通	2					○	2		2				オムニバス
	理学療法基礎評価学Ⅱ	2通	2					○	3			1			オムニバス
	理学療法評価学総合演習	2後	1					○	7		3	1			
	画像診断学	3後	1					○							兼1
	物理療法学	3前	2					○	1		1	1			オムニバス ※演習
	運動療法学Ⅰ	2前	1					○	1		2				オムニバス ※演習
	運動療法学Ⅱ	2後	1					○	1		1	1			オムニバス ※演習
	義肢装具学Ⅰ	2後	1					○	2						兼3
	義肢装具学Ⅱ	3前	1					○	2						兼3
	日常生活動作学Ⅰ	2前	1					○	2		1				オムニバス ※演習
	日常生活動作学Ⅱ	2後	1					○	2		1				オムニバス ※演習
	骨関節障害理学療法学	3前	2					○	1						
	骨関節障害理学療法学演習	3後	2					○	1		2				
	神経障害理学療法学	3前	2					○	1			1			オムニバス
	神経障害理学療法学演習	3後	2					○	1		1	1			
	発達障害理学療法学	3前	2					○	1						
	発達障害理学療法学演習	3後	2					○	1		1				
	内部障害理学療法学	3前	2					○	2						オムニバス
	内部障害理学療法学演習	3後	2					○	2		1				
	理学療法治療学総合演習	3後	1					○	7		3	1			
	スポーツ障害理学療法論	3後			1			○							兼2
	ハンドセラピー	3前			1			○							兼1
	神経筋促進治療論	3後			1			○	1						兼1
	徒手療法論	3後			1			○							兼1
	リハビリテーション工学	3前			1			○							兼2
	地域理学療法学	3前	2					○	1						
地域理学療法学演習	3後	1					○	1		1					
生活環境論	3前	1					○	1		1				オムニバス	
国際協力と理学療法	4後			2			○			1					
健康増進と理学療法	4後			1			○	1		1				オムニバス	
障害者スポーツ指導論	4後			1			○	1						兼3	
臨床実習Ⅰ	1通	1						7		3	1			集中	
臨床実習Ⅱ	2後	2						7		4	1				
臨床実習Ⅲ	3後	6						7		4	1				
臨床実習Ⅳ	4前	8						7		4	1				
臨床実習Ⅴ	4前	3						7		4	1				
	小計 (42 科目)	—	65	9	0		—	8	0	4	1	0		兼12	
	理学療法総合講義	4後	1				○	8		4	1				
	理学療法研究セミナーⅠ	3通	2				○	8		4	1				
	理学療法研究セミナーⅡ	4通	2				○	8		4	1				
	小計 (3 科目)	—	5	0	0		—	8	0	4	1	0		兼0	
	合計 (108 目)	—	120	46	0		—	8	0	4	1	0		兼76	
学位又は称号	学士 (理学療法学)			学位又は学科の分野				保健衛生学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
全学教育科目 27 単位以上 (うち必修 19 単位)、専門教育科目 101 単位以上 (うち必修 101 単位)、合計 128 単位以上修得し、卒業論文を提出する。								1 学年の学期区分				2 学期			
								1 学期の授業機関				15 週			
								1 時限の授業時間				80 分			

教 育 課 程 等 の 概 要

(リハビリテーション科学部作業療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
全 学 教 育 科 目	基礎ゼミナール (コミュニケーション実践論)	1前	1					○		2		3			兼6	
	文章指導 (日本語の表現)	1前	1					○		2	1	1	1		兼6	
	人間と思想 (心理学)	1後		2			○								兼1	
	人間と思想 (死生学入門)	1前		2			○								兼1	
	人間と思想 (哲学入門)	1前		2			○								兼1	
	人間と社会 (医療の経済学)	1後		2			○								兼1	
	人間と社会 (医療の法学)	1後		2			○								兼1	
	人間と社会 (国際社会福祉論)	3前		2			○					1			兼2	オムニバス
	人間と文化 (文化人類学)	1前		2			○								兼1	
	人間と文化 (環境の歴史)	2後		2			○					1				
	人間と文化 (国際文化比較論)	2前		2			○								兼3	オムニバス
	自然と科学 (生命科学)	1前	2				○			1						
	英語 I (オラル・イングリッシュA)	1前	1						○						兼3	
	英語 I (オラル・イングリッシュB)	2前	1						○						兼3	
	英語 II (英語A)	1後		1					○						兼1	
	英語 II (英語B)	2後		1					○						兼1	
	中国語 (中国語)	1前		1					○						兼1	
	韓国語 (韓国語)	1後		1					○						兼1	
	フランス語 (フランス語)	2後		1					○						兼1	
	ドイツ語 (ドイツ語)	2前		1					○						兼1	
	情報処理演習 (情報処理演習)	1前	1						○						兼1	
	統計学 (基礎統計学)	3前	2				○								兼1	
	健康・運動科学演習 (運動科学演習)	1通	2						○						兼2	
	自然科学入門 (基礎数理)	1前	1						○						兼1	
	自然科学入門 (物理学)	1後		2				○							兼1	
	自然科学入門 (生物学)	1後	2					○		1						
	自然科学入門 (化学)	1後		2				○							兼1	
	個体差健康科学 (個体差健康科学)	1前	2					○				1			兼1 4	オムニバス
	医療倫理 (医療倫理)	1後	2					○							兼1	
	地域連携 (地域包括ケア演習)	3前		1					○	2		3			兼6	
	地域連携 (メンタルケアをつくる I)	2前		1					○	1		1			兼3	集中
	多職種連携 (多職種連携論)	3前	1						○	2	1	1	1		兼6	
小計 (32 科目)		—	19	30	0			—	4	1	5	1	0	兼46		
専 門 基 礎 科 目	解剖学 I	1前	1				○							兼3	オムニバス ※演習	
	解剖学 II	1後	1				○							兼3	オムニバス ※演習	
	解剖学実習	2前	1									○		兼3		
	生理学 I	1前	1				○							兼1	※演習	
	生理学 II	1後	1				○							兼1	※演習	
	生理学実習	1後	1								2	1		兼7		
	運動生理学	2前	1				○							兼1	※演習	
	運動学 I	1後	1				○							兼1	※演習	
	運動学 II	2前	1				○							兼1	※演習	
	運動学実習	2後	1							1		2		兼5		
	老年学	2前	1				○							兼2	オムニバス	
	人間発達学	2前	1				○					1		兼1	オムニバス	
	医学概論	1前	1				○			1						
	病理学	2前	1				○							兼2	オムニバス	
	整形外科学	2前	2				○							兼1		
	内科学	2後	2				○							兼4	オムニバス	
	神経学	2後	2				○			1						
	小児科学	2後	1				○							兼1		
	精神医学 I	2前	2				○			1						
	精神医学 II	2後	2				○			1						
	病態運動学	2後	1				○							兼3	オムニバス ※演習	
	高次脳機能障害学	2後	1				○			1						
	臨床心理学	2後	1				○							兼1		
	薬理学	2後		1			○							兼1		
公衆衛生学	2後	1				○							兼2	オムニバス		
栄養学	2後		1			○							兼1			
リハビリテーション概論	1前	2				○			2				兼1	オムニバス		
理学療法概論	1前		2			○							兼2	オムニバス		
基礎理学療法学	1後		2			○							兼5	オムニバス		

	保健医療福祉論	3前	1			○								兼4	オムニバス	
	障がい者当事者論	2前	1				○					1		兼1	オムニバス	
	積雪寒冷地の生活と諸問題	3通	1				○							兼1		
	小計 (32 科目)	—	34	6	0	—			3	0	4	1	0	兼33		
専 門 科 目	作業療法概論	1前	2			○			2	1	4	1			オムニバス	
	職業倫理・管理学	4後	1			○			1							
	作業療法技術学演習Ⅰ	2前	1				○		2	1	4	1				
	作業療法技術学演習Ⅱ	2後	1				○		2	1	4	1				
	作業療法研究法	3前	1			○			2	1						
	評価学概論	2前	1			○						3	1		オムニバス	
	身体機能評価学Ⅰ	2後	1				○		1			2			オムニバス	
	身体機能評価学Ⅱ	3前	1				○		1			2			オムニバス	
	精神機能評価学	2後	1				○		1	1			1		オムニバス	
	発達系評価学	2後	1				○					1				
	評価学実習	2後	1					○	2	1	4	1				
	画像診断学	3後		1			○							兼1		
	日常生活援助学	2後	2				○					2			オムニバス	
	日常生活援助学演習	3前	1					○				2				
	身体障害作業療法学	3前	2				○		1							
	身体障害作業療法学演習	3後	1					○	1							
	精神障害作業療法学	3前	2				○		1				1			
	精神障害作業療法学演習	3後	1					○	1				1			
	発達障害作業療法学	3前	2				○					1				
	発達障害作業療法学演習	3後	1					○				1				
	老年期障害作業療法学	3前	2				○		1							
	老年期障害作業療法学演習	3後	1					○	1							
	高次脳機能障害作業療法学	3前	2				○					1				
	高次脳機能障害作業療法学演習	3後	1					○				1				
	義肢装具学	3後	2				○					1			兼4	オムニバス
	作業適用学	1後	2				○		2	1	4	1				オムニバス
	音楽療法	3前		1			○				1					
	ハンドセラピー	3前		1			○								兼1	※演習
	徒手療法論	3後		1			○								兼1	※演習
	呼吸リハビリテーション学	3前		1			○		1	1					兼1	※演習
	神経筋促通治療論	3後		1			○		1						兼1	
	園芸療法	3前		1			○				1		1		兼1	※演習
地域作業療法学	3前	2				○					2			兼1	オムニバス	
地域作業療法学演習	3後	1					○				2					
リハビリテーション工学	3前	1				○		1			1					
就業援助論	4後	1				○		1								
介護技術方法論	3前		1			○								兼2	オムニバス	
臨床見学	1前	1						2	1	4	1				集中	
評価実習	2後	4						2	1	4	1					
総合臨床実習Ⅰ	3後	9						2	2	4	1					
総合臨床実習Ⅱ	4前	9						2	2	4	1					
	小計 (41 科目)	—	62	8	0	—		2	2	4	1	0		兼11		
	作業療法学総合講義	4後	1					4	2	4	1					
	作業療法研究セミナーⅠ	3通	2					4	2	4	1					
	作業療法研究セミナーⅡ	4後	2					4	2	4	1					
	小計 (3 科目)	—	5	0	0	—		4	2	4	1	0		兼0		
	合計 (108 科目)	—	120	44	0	—		4	2	5	1	0		兼76		
学位又は称号	学士 (作業療法学)			学位又は学科の分野				保健衛生学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
全学教育科目 27 単位以上 (うち必修 19 単位)、専門教育科目 101 単位以上 (うち必修 101 単位)、合計 128 単位以上修得し、卒業論文を提出する。						1 学年の学期区分			2 学期							
						1 学期の授業機関			15 週							
						1 時限の授業時間			80 分							

教 育 課 程 等 の 概 要

(看護福祉学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全 学 教 育 科 目	基礎ゼミナール(基礎ゼミナール)	1前		2		○				1	1			兼3	
	文章指導(日本語の表現)	1前		2		○				1					
	文書指導(日本語のトリック)	1後		2		○				1					
	人間と思想(人間学入門)	1前		2		○								兼1	
	人間と思想(哲学の冒険)	2前		2		○								兼1	
	人間と文化(国際文化比較論)	1前		2		○			1	1				兼1	オムニバス
	人間と文化(日本の小説)	1前		2		○				1					
	人間と文化(環境の歴史)	1後		2		○								兼1	
	人間と社会(国際社会福祉論)	1後		2		○								兼5	オムニバス
	人間と社会(言語社会学入門)	1後		2		○								兼1	
	英語Ⅰ(オラルイングリッシュA)	2前	1				○		1					兼2	
	英語Ⅰ(オラルイングリッシュB)	2後		1			○		1						
	英語Ⅱ(英語A)	1前	1				○				1				
	英語Ⅱ(英語B)	1後	1				○							兼2	
	英語Ⅱ(英語C)	2前					○					1			
	英語Ⅱ(英語D)	2後					○					1			
	英語Ⅲ(総合英語)	3前		1			○							兼1	
	フランス語(初級フランス語)	1前		1			○							兼1	
	フランス語(中級フランス語)	1後		1			○							兼1	
	ドイツ語(初級ドイツ語)	1前		1			○							兼1	
	ドイツ語(中級ドイツ語)	1後		1			○							兼1	
	健康・運動科学(運動科学論)	1前		2		○								兼2	オムニバス
	健康・運動科学演習(運動科学演習)	1後		1			○							兼3	
	情報科学(情報科学)	1後		2		○								兼1	
	情報処理演習(情報処理演習)	1前	1				○							兼1	
	統計学(基礎統計学)	1前	2			○								兼1	
	物理学(基礎物理学)	1後		2		○								兼1	
	化学(基礎化学)	1前		2		○								兼1	
	生物学(基礎生物学)	1前		2		○								兼1	
	社会学(社会学)	1前		2		○								兼1	
	経済学(経済学)	1前		2		○								兼1	
	経済学(医療経済学)	2前		2		○								兼1	
	法学(法学)	1前		2		○								兼1	
	法学(日本国憲法)	1前		2		○								兼1	
	法学(民法)	2前		2		○								兼1	
	人類学(文化人類学)	1後		2		○					1				
	人類学(医療人類学)	2前		2		○					1				
	心理学(心理学)	1前		2		○								兼1	
	個体差健康科学(個体差健康科学)	1前	2			○			1	1				兼1 3	オムニバス
	地域連携(メディアカフェをつくる)	1前		2			○							兼6	集中
	地域連携(地域ボランティア論)	1後		2		○								兼1	
小計(41科目)	—	—	8	61	0	—	—	—	2	2	1	0	0	兼41	
専 門 教 育 科 目	看護学原論	1前	2			○			1					兼1	
	人間発達論	1前	2			○								兼4	
	看護福祉学入門	1後	2			○				2	2			兼1	
	臨床心理学	1後	2			○								兼1	
	看護倫理	3前	2			○			2						オムニバス
	看護管理論	4後	2			○						1		兼2	オムニバス
	音楽療法概論	2前		2		○								兼2	オムニバス
	コミュニケーション論	2前		2		○								兼1	
	社会福祉概論	1前	2			○								兼1	
	家族関係論	1後	2			○								兼1	
	公衆衛生学	2前	1			○			1					兼1	オムニバス
	疫学	2後	1			○			1						
	保健統計	3前	1			○			1						
	保健医療福祉行政論Ⅰ	3後	1			○				3		2			オムニバス
	医学原論	1前	1			○			3					兼5	オムニバス
	人体構造学Ⅰ	1前	1			○			1						
	人体構造学Ⅱ	1後	1			○			1						
	人体機能学Ⅰ	1前	1			○								兼1	
	人体機能学Ⅱ	1後	1			○								兼1	
	人体構造機能学演習	1後~2前	1				○		1					兼5	
	生化学	1後	1			○								兼2	オムニバス
	微生物学	1後	1			○			1						
	薬理学	2前	1			○								兼1	
病理学Ⅰ	1後	1			○			1							
病理学Ⅱ	2前	1			○			1							
食物学	2前	1			○								兼1		
成人病態論Ⅰ	2前	1			○			1					兼2	オムニバス	

成人病態論Ⅱ	2後	1			○			1											
成人病態論Ⅲ	3前	1			○			1	1	1								オムニバス	
小児病態論	2後	1			○			1		1				兼2				オムニバス	
母性病態論	2後	1			○					1	1		1	兼2				オムニバス	
精神病態論	2前	1			○				1	1	1			兼1				オムニバス	
老年病態論	2後	1			○			2	1	1								オムニバス	
リハビリテーション法	2後	1			○			1		3				兼4				オムニバス	
看護技術論	1後	1			○			1											
看護技術基礎演習	1後	1				○					3	2							
看護技術各論Ⅰ	2前	1			○						3							オムニバス	
看護技術各論Ⅱ	2後	1			○						3	1						オムニバス	
看護技術演習Ⅰ	2前	1				○					3	1							
看護技術演習Ⅱ	2後	1				○					3	1							
母性看護学	2後	2			○					1									
母性看護学演習	3前	1				○				1	1	1							
小児看護学	2後	2			○			1			1	1						オムニバス	
小児看護学演習	3前	1				○		1			1	1							
成人看護学	1後	2			○			1	1	1	1	3							※演習
成人看護各論Ⅰ	2前	1			○				1	1	1	1						オムニバス	
成人看護各論Ⅱ	2後	1			○				1	1								オムニバス	
成人看護各論Ⅲ	3前	1			○						1	1						オムニバス	
成人看護学演習	3前	1				○			2	2	5								
がん看護学	3前	2			○			2										オムニバス	
老年看護学	2前	2			○			1	1	1								オムニバス	
老年看護学演習	3前	1				○		1	1	1	1								
精神看護学	2後	2			○				1	1	1	1						オムニバス	
精神看護学演習	3前	1				○			1	1	1								
在宅看護学	2前	2			○				1		1							オムニバス	
在宅看護学各論	2後	1			○				1		1	1						オムニバス	
在宅看護学演習	3前	1				○			3		2								
公衆衛生看護学概論	2前	2							1										
公衆衛生看護活動展開論Ⅰ	2後	1							3									オムニバス	
公衆衛生看護活動展開論Ⅱ	3前		2		○			1	1									オムニバス	
公衆衛生看護活動展開論Ⅲ	3前		2		○				1										
公衆衛生看護管理論	4前		1		○				3		2							オムニバス	
クリティカルケア	3前		1		○				1		3								※演習
皮膚・排泄ケア	4後		1		○									兼2				オムニバス	
感染管理	4後		1		○			1											
看護実践演習	3前	1				○		10	8	11	14								
基礎看護学実習	2後	3					○	2		3	1							集中	
母性看護学実習	3後	2					○		1	1	1								
小児看護学実習	3後	2					○	1		2	1								
成人看護学実習Ⅰ	3後	4					○		2	1	3								
成人看護学実習Ⅱ	4前	4					○		2	1	3								
老年看護学実習	3後~4前	4					○	1	1	1	1								
精神看護学実習	3後~4前	2					○		1	1	1	1							
在宅看護学実習Ⅰ	3後	1					○	1	4	2	4								
在宅看護学実習Ⅱ	3後~4前	1					○		1	1	1								
音楽表現技術Ⅰ	2後		2		○									兼1					
音楽表現技術Ⅱ	3前		2		○									兼1					
音楽表現技術Ⅲ	3後		2		○									兼2				オムニバス	
療法的音楽活動演習	4通		1			○								兼2					
療法的音楽活動実習	4通		1				○							兼2					
公衆衛生看護活動展開論Ⅳ	4後		2		○				3		2							オムニバス	
公衆衛生看護活動展開論Ⅴ	4後		2		○			1	2		1							オムニバス	
健康教育論	4後		2		○				3		2							オムニバス	
保健医療福祉行政論Ⅱ	4後		2		○				3		2							オムニバス	
公衆衛生看護学実習	4後		5			○			3		2								
小計(85科目)	—	97	33	0	—			10	8	11	14			兼30					
看護総合講義	4後			2	○			3	2	2	1								
卒業研究	4通	3	0	2	—		○	10	8	11	0								
小計(2科目)		3	0	2	—			10	8	11	1			兼0					
合計(128科目)		108	94	2	—			11	10	12	14			兼69					
学位又は称号	学士(看護学)			学位又は学科の分野						保健衛生学関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等											
全学教育科目 32 単位以上(うち必修8 単位)、専門教育科目 100 単位以上(うち必修 100 単位)、合計 132 単位以上修得する。								1 学年の学期区分				2 学期							
								1 学期の授業機関				1 5 週							
								1 時限の授業時間				8 0 分							

授 業 科 目 の 概 要

(リハビリテーション科学部 理学療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全 学 教 育 科 目	基礎ゼミナール（コミュニケーション実践論）	初年次の学生が、大学の教育環境に早い時期から適応することは重要である。高校までの受動的な学習から能動的で自律的な学習態度への転換を図ることを本授業の目的とする。本学部・学科の教員が出動して、少人数グループ形態で実施する。グループワークを通して、調べる・整理する・まとめる・伝えるの力を身につける。また、自らの活動の振り返り作業も行う。それらの一連の活動を通じて、コミュニケーションやプレゼンテーションの能力を培い、もの見方や考え方などの知の技法を学ぶ。	
	文章指導（日本語の表現）	本講義では、大学生活を送る上で必要となる日本語表現力や社会人として求められる基礎的な日本語表現力を身につけることを目的とする。大学生として必要なノートの取り方やメールの書き方、レポートの書き方やプレゼンテーションの方法などを講義と演習を通して学ぶ。また、臨床実習など学外の実社会で求められることの多い敬語の基礎や確実な連絡メモの取り方、他者への説明の仕方などについても同様に講義と演習を通して学ぶことで幅広い表現力を身につけることを目標とする。	
	人間と思想（心理学）	心理学とは、人間の行動や心的過程を科学的に探求する学問である。対象とする領域は非常に広く、基礎分野から応用分野まで多岐にわたる。本講義では、心理学に関する広範な領域の中から代表的なテーマをとりあげ概説することによって、心理学の基本的発想を学ぶとともに心理学がどのようにわれわれの生活と結びついているかを理解する。また、医療の中での最近の心理学のテーマについても取り上げ、医療の中で心理学が果たす役割について理解する。	
	人間と思想（死生学入門）	死生学が求められているのは、医療現場だけではなく。特に、高度の医療専門職業人を育てる教育現場でも「死生観教育」への強い要望があり、学生たちに「いのちの尊厳」について教えることが求められています。死に向き合う術を見失った現代、そして、葬送儀礼や墓制が急速に変化し、慰霊や追悼のあり方にも論争が生じている今こそ、死だけを切り離して考察するのではなく、生殖や誕生、病や老いといった人生の危機にどう向き合うか、これらも死生学の重要な課題なのです。	
	人間と思想（哲学入門）	哲学は、本来原理的、批判的思考であり、その意味で諸学問や世界を生きるいわば根幹を模索する営みである。この哲学の本来の意味を訪ね、また科学的な世界の本質を考察する。教員による講義だけでなく、小レポートの活用により紙上討論の形もとり、一方的な知の伝達ではなく、自ら考え、また相互の意識交通を図る内容とする。哲学の原理的、批判思考と科学的思考の違いを知ると共に、現代を理解し、生き抜くために、問いの転換に着目し、越境的、冒険的な知に迫ることで、世界や自己について理解する。	
	人間と社会（医療の経済学）	医療経済学は、医療の現場で起こっている様々な現実を経済学の視点でとらえ、医療と経済の望ましい関係を明らかにするための学問である。 この講義では、少子高齢化やグローバル化や財政赤字の累積という21世紀の厳しい諸条件の下で進まざるをえない医療保障制度の再編の方向性について考えることを中心課題とする。	
	人間と社会（医療の法学）	法学の基礎を学んだ上で、医療に関する法について学習する。 1. 法律や法学に関する基本的知識を身につける。 2. 法を学ぶことを通じて、社会に対する広い視野と深い洞察力を身につける。 3. 医療や福祉に関する法の体系、法の意義・作用の基礎について学ぶ。 4. 医療や福祉に携わる者の資格や業務、責任の基礎について学ぶ。	
	人間と社会（国際社会福祉論）	グローバル化が進行する現代世界において、医療や福祉は国際的な結びつきの中で捉えるべき問題となっている。この講義では、発展途上国における貧困や疾病の問題、国際援助のあり方をめぐる問題など、人の健康や安全を害する世界の様々な問題について取り上げ、自ら調べ、考え、発表し、討論することを通じ、国際的な視点から医療や福祉の課題について理解し、説明できる能力を習得する。 (オムニバス方式／全15回) (49 花潤馨也／5回)アフリカが抱える貧困や疾病、紛争などの問題について取り上げる。 (29 半田祐二郎／5回)スリランカやアフリカなどの公衆衛生と国際援助の問題について取り上げる。 (24 千葉芳広／5回)東南アジアの経済的貧困の問題などについて取り上げる。	オムニバス方式

(リハビリテーション科学部 理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学教育科目	人間と文化（文化人類学）	ヒトは生きるための先天的な能力に代わり、自らの生き方＝文化を後天的に学習することによって生きることを選択した生物である。この講義では、文化的存在としてのヒトの生の根源について考察するとともに、世界の多様な文化についてとりあげ、異なるものの見方や価値観をもつ異文化を理解するための視点と方法について学ぶ。異質な他者との比較を通して、自分たちがあたり前とする自文化に拘束された考え方を見直し、文化的存在としてのヒトの普遍性と多様性について理解し、説明できる能力を習得する。	
	人間と文化（環境の歴史）	人間と環境との関わりの歴史を講義する。現代の人間社会において、環境問題は最優先に取り組むべき課題である。とりわけ人間の健康は、自然環境や社会経済の変化と密接な関係を持っている。具体的には、地域間の文明交流や人間の開発行為が自然や社会経済の環境を作り変え、また人間がその影響を受けてきた歴史を考察する。取り上げるテーマは、感染症の流行、森林伐採などである。	
	人間と文化（国際文化比較論）	世界には独自なもの見方や価値観をもつ多様な文化が存在しており、異なる文化をもつ人々のあいだで摩擦が起こり、ひどく対立し合うこともしばしばある。多様な文化をもつ人々がいかに平和に共生することができるのかは、グローバル化が進む現代世界の大きな課題である。この講義では、多様な異文化に触れ、その差異を学ぶことを通じ、他者との共生の道について考えるための国際的視野と異文化理解の方法を習得する。 (オムニバス方式／全15回) (49 花淵馨也／5回)アフリカの文化について取り上げる (30 ハワード・ターノフ／5回)アメリカの文化について取り上げる。 (29 半田祐二郎／5回)スリランカやアフリカの文化について取り上げる。	オムニバス方式
	自然と科学（生命科学）	「生命とは何か」、「ヒトとは何か」を科学的に追求し、人間についての理解を深めることを本授業の目的とする。遺伝子科学は多様な分野を巻き込みながら発展し、新たな生命像が浮き彫りになっている。授業では、最初に生命の「中心教義」について学び、ヒトゲノム構造の特徴を理解する。それらの分子生物学的な知識を土台にして、さらに「ABO式血液型と遺伝子」・「がんとかん遺伝子」・「肥満」・「体内時計」・「性の分化」・「個体の老化」・「免疫にみる自己と非自己」・「脳と心の働き」などについて学ぶ。	
	英語Ⅰ（オーラル・イングリッシュA）	This course is designed to increase the level of oral skills by a multi-media driven approach Students are placed in a variety of everyday situations in order to practice their oral skills Listening is a key element for this class and will enhance the development of overall communicative competency. (和訳) この講義ではマルチメディアを使用し、日常のさまざまな状況下に学生を置いてオーラルスキルのレベルを向上させることを目的とする。リスニングはこの	
	英語Ⅰ（オーラル・イングリッシュB）	This course is designed for students who will enter healthcare related professions upon graduation. The student will be taught the English names of all major parts of the body and some of the illnesses and conditions that can affect it. Exposure to healthcare terminology and a wide variety of situations that can take place in and around a hospital will be presented. (和訳) この講義では卒業後に保健医療に携わる学生のために、主な身体の部位や病気および健康状態の英語名を教え、活用できるようにする。保健医療の専門用語や病院などで発生する様々な状況を学ぶ機会を与える。	
	英語Ⅱ（英語A）	英語によるコミュニケーションを積極的に図ろうとする態度の育成を目指す。平易な英語で書かれたり話されたりする内容を的確に理解し、それに対する自分の考えを適切に伝える能力を養い、それを社会生活において活用できることを目指す。また、異文化間能力の養成を目標とし、英語を通じて、外国の事情や異文化について理解を深めると同時に、異文化が接触する際に生じる否定感情をコントロールする能力を養うことを目指す。さらに自分の専門分野の基礎的なテーマに関する英語を的確に理解する能力を養う。	
	英語Ⅱ（英語B）	英語によるコミュニケーションを積極的に図ろうとする態度の育成という点で英語Aと共通である。英語Aを土台として、標準的かつ専門的な英語で書かれたり話されたりする内容を的確に理解し、それに対する自分の考えを適切に伝える能力を養い、それを社会生活において活用できることを目指す。また、英語Aで養成した異文化間能力をさらに高め、より職能人を意識した応用力養成に視点を移す。つまり、自分とは異文化に生きる他者、患者、他の医療人と円滑にコミュニケーションが図れるような異文化間能力を養成する。	

(リハビリテーション科学部 理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学教育科目	中国語（中国語）	このクラスでは、中国語の発音、文法および会話と、ゼロからの学習者を中心に講義を展開する。とりわけ、日本人学習者にとって最難関といわれる発音（四声）に関して、徹底した指導を行うとともに、学習者に苦手意識を持たせぬよう、日常に役立つフレーズや文法事項を分かり易く解説しながら、学習者が中国語を話すことに楽しさを感じられるよう期待する。また、語学的指導以外に、中国の文化や習慣の違い等についても、日本と比較しながら触れてゆく。	
	韓国語（韓国語）	韓国語の入門過程として、文字や発音の紹介、そして基本文型を中心にした韓国語の仕組みが解るよう基礎的文法の解説をまじえながら辞書を用いて韓国語の文章が理解できるように説明する。また、韓国人との交流や生活文化の理解に役立つ簡単な日常会話ができるように、500から800ぐらいの単語習得を目標に読み書きと共に基礎会話の練習を並行して行う。	
	フランス語（フランス語）	フランス語のしくみについて、音の綴りの対応関係基本的言語構造、フランス語と英語の共通性と異質性などについて理解する。	
	ドイツ語（ドイツ語）	この授業は、簡単な会話文と初級文法を中心に学ぶ初級者のためのドイツ語講座である。ドイツ語の読み・書き・会話における基礎的な力を身に付けることを主な目標としている。また、ドイツ語圏の現状や文化についても理解を深めるために、ドイツ語と日本語の違い、あるいはドイツ人と日本人の価値観の違いについてなど様々な問題提起を行っていく。さらに、言語を通して異文化に触れることで、多文化共生の問題にもアプローチしていく。	
	情報処理演習（情報処理演習）	コンピュータのリテランススキルを習得する科目である。本講では主として、文書作成、表計算、プレゼンテーション、およびインターネットの活用に関する演習を中心に進める。	
	統計学（基礎統計学）	保健医療の分野において、研究、調査、診療などによって得られるデータは、多量で複雑であったり、バラツキがあったりすることが多いが、実際には有用な情報を含んでいる。基礎統計学では、このようなデータから全体に関する有用な情報を引き出す方法を学ぶ。	
	健康・運動科学演習（運動科学演習）	「健康・体力づくりに関する基礎的知識、運動の必要性、および科学的根拠に基づいた具体的な運動トレーニング法について演習形式で学習する。また、スポーツ活動の実践を通して、社会性、健康・体力の維持増進、QOL (quality of life) の向上を図る。このような学習によって、健康・体力の維持増進を図るための実践的な能力を身につける。	
	自然科学入門（基礎数理）	基礎専門科目や専門科目を学習するのに必要な数学の基礎を学習する。高校までの算数・数学を再確認し、自然科学を学ぶ上で必要な数学的素養と思考力を身につける基礎を養う。	
	自然科学入門（物理学）	身近な物体の運動を題材として、運動の表し方や運動する物体が従う法則について説明し、運動量や力学的エネルギー等の力学の基本概念を解説する。また、静止した物体に作用する力のつり合いを題材として、力のモーメントや重心等の静力学の基本概念についても解説する。更に、音や光の波動現象を取り上げ、波動の概念および反射や回折等の波動が従う法則について説明し、医用工学の基礎となる超音波や電磁波およびX線の物理について解説する。	
	自然科学入門（生物学）	ヒトにまつわる生物学の諸分野を幅広く学び、「生物の原則」を知る。また医療系教育で必要な「ヒトに関する基本」を身につけることを本授業の目的とする。あらゆる生命体は、「生命の単位」・「生命の維持」・「生命の連続」という点において共通するしくみをもつ。それらの内容についてヒトを中心に学ぶ。また、それらのしくみとは一見相矛盾する「生命の多様性」についても理解を深める。高校「生物」未履修の学生に対しても、無理なく学習できるように授業を進める。	
自然科学入門（化学）	生体内で起こる化学反応は生命活動を支える源として、あるいは精神活動に大きな影響を及ぼしており、また、身体を構成する筋、骨組織などの構成成分はすべて化学物質から成り立っている。これらの化学反応と化学物質の性質や特徴を理解することは、理学療法や作業療法など人の活動をサポートしていく上で重要な基礎的知識の一つとなる。本講義では、物質や物質を構成する原子、それらの繋がりにより生み出される物質の化学的性質、また、それが担う基本的な理論・法則を理解することにより、リハビリテーション科学を学ぶものに必要な化学的理解力、応用力を身につけることを目的とする。		

(リハビリテーション科学部 理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学教育科目	<p>個性差健康科学（個性差健康科学）</p>	<p>この講義では、本学行動指針としての「個性差健康科学」の思想について学んだ後、四つのテーマに沿って「個」という問題を考えていく。＜①個と社会＞では、幸せで健康な社会を築くためには、個人と社会がどのような関係をもつべきなのかという問題を考える。＜②個の健康と環境＞では、個人の健康がいかに自然環境や社会環境と切り離せないものであるかを学ぶ。＜③遺伝子と個性差医療＞では、最先端の遺伝子やゲノム研究の基礎を学ぶとともに、その応用による個性差医療の未来像と倫理問題について考える。＜④個のためのケア＞では、ひとりひとりの個性差と人格の尊重に基づいた医療や福祉のこれからのあり方として、当事者を主体とした福祉の考え方や、諸分野の連携によるチーム医療の必要性について考える。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(49 花渕馨也／1回) 概論・ガイダンス (44 廣重 力／1回) 個性差健康科学への誘い (24 千葉芳広／1回) 個と社会：幸せをさがして (29 半田祐二郎／1回) 個と社会：健康な個人が健康な社会を作る (45 坂野雄二／1回) 個の健康と環境：心の健康とストレス (65 大澤宜明／1回) 個の健康と環境：環境と免疫応答 (46 中山英二／1回) 個の健康と環境：生活環境とあごの健康 (57 太田 亨／1回) 遺伝子と個性差医療：遺伝子は変えられないのか？ (66 浜上尚也／1回) 遺伝子と個性差医療：遺伝子から見る個性差 (58 北市伸義／1回) 遺伝子と個性差医療：遺伝子と病気のかかりやすさ (64 荒川俊哉／1回) 遺伝子と個性差医療：オーダーメイド再生医療の近未来 (79 松田一郎・1回) 遺伝子と個性差医療：遺伝子時代の生命倫理 (48 向谷地生良／1回) 個のためのケア：「当事者研究」の可能性 (47 小林正伸／1回) 個のためのケア：医療は何のためにあるのか？ (1 新川詔夫／1回) まとめ：新医療人をめざして</p>	オムニバス方式
	医療倫理（医療倫理）	<p>医療倫理とは、医療従事者と患者との間を調整するためのルールと定義されている。伝統的な医の職業倫理に、バイオエシックスという患者・社会の視点、研究倫理が加わり、新しい医療倫理を支える学問が発展しつつある。即ち、現代における医療倫理とは「医療が行われる際に守られるべきルール、相応しい行われ方」であり、そして医療倫理学とは、将来、高度の医療専門職業人を目指す学生諸君が「その医療倫理を支える学問」と積極的に認識するものである。</p>	
	地域連携（地域包括ケア演習）	<p>本学が所在する当別町をはじめ、北海道内の様々な地域の地域ケア関係機関との協働のもと、人々が住みなれた地域で安心して暮らせるような取り組みを試行的に行う。専任教員の指導のもと、各グループに分かれて、試行的事業の立案、関係機関への事業提案、事業の試行的実施、振り返りといった一連の過程の経験を通じて、地域包括ケアのイメージを具体化させるとともに、地域包括ケアに対するセラピストの参画意義について考察を行う。</p>	
	地域連携（メディカルカフェをつくるⅠ）	<p>市民と専門家との双方向コミュニケーションの「場」となる「メディカル・カフェ」を企画・設計し、実施に向けて活動を行う参加型形態の授業である。多様な医療職種を目指す本学の学生からなるグループのもとで、互いに協働して、医学・医療・健康などをテーマとする市民参加型のイベントを地域と連携して開催する。さまざまな主体的な活動体験を通じて、医療専門家のコミュニケーションに必要なコミュニケーションおよびイベント運営などに関するスキルを学ぶ。</p>	集中
	多職種連携（多職種連携論）	<p>医学的な視点のみならず、対象者の社会的・心理的な視点にも配慮した医療が求められる中でチーム医療は必須の手段であり、より良いリハビリテーションを実践するためには多専門職種との有機的な連携と協業は欠かせない。本講義では、専門職種間の有機的な連携と協業についての基礎知識や理論、連携のためのマネジメントの実践についてそれぞれの専門的な立場から考察し、多職種連携が果たす役割や機能について学ぶ。</p>	

(リハビリテーション科学部 理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	解剖学Ⅰ	解剖学は人体を対象とした学問体系の中で最も基礎的な学問であり、解剖学Ⅰでは人体の基本構造を骨格系などの10器官系系統別に学ぶ。さらに各器官系の知識を整理統合することにより、人体に特徴的構造が生命の維持に不可欠な構造であると同時に、各臓器の構造が生命維持に必要な機能を反映したものであることを理解する。 (オムニバス方式/全15回) (8 高橋尚明/9回) 骨格系、筋系、神経系、感覚器系、循環器系、呼吸器系 (35 坂倉康則/3回) 消化器系、泌尿器系 (36 入江一元/3回) 生殖器系、内分泌系	オムニバス方式
	解剖学Ⅱ	解剖学Ⅱでは、今後学ぶ運動学や病理学をはじめ評価学や日常生活活動学など、理学療法学や作業療法学を学ぶために必要な臨床的知識を支える科目として位置づけ、解剖学Ⅰで学んだ人体構造の系統別知識をさらに詳細に修得する。特に、骨格系、筋系、神経系、循環器系、呼吸器系の5器官系の知識をリハビリテーション科学的な視点から深く掘り下げ、系統別機能解剖学を含む講義を行う。 (オムニバス方式/全15回) (8 高橋尚明/13回) 骨格系、筋系、神経系、循環器系、呼吸器系、運動機能系 (35 坂倉康則/1回) 骨格系総論 (36 入江一元/1回) 筋系総論	オムニバス方式 講義28時間 演習2時間
	解剖学実習	解剖学ⅠおよびⅡで修得して系統解剖学的知識を改めて整理統合し、人体の三次元的な構造としての知識を実際の臓器に触れることを通して定着させる。特に、上肢と下肢を中心とした運動器の構造およびそれらの支配神経の走行経路について、生体に照らしてより詳細に理解し説明できるようにする。加えて、「人の死」をみつめることで、生命の尊厳と医の倫理について考察できる力を培う。	
	生理学Ⅰ	多細胞生物である「ヒト」は、個として「生きる」ため、自らを構成する細胞の一つ一つに必要な栄養と酸素を供給し利用する多くの生理機能を有する。これらの生理機能の中、神経機能(脳と脊髄機能)、感覚機能(体性感覚、内臓感覚、視覚、聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚)、運動機能、血液機能(免疫機能を含む)について学び、解剖学の知識を加え、ヒトの「生きる仕組み」の基本を理解する。「運動学Ⅰ」、「運動学Ⅱ」、「神経学」、「高次脳機能障害学」などの基礎となる科目である。	講義26時間 演習4時間
	生理学Ⅱ	「生理学Ⅰ」に引き続き、「ヒト」が個として「生きる」ために必要な生理機能の中、循環機能(心臓および血管機能)、呼吸機能、栄養素の消化吸収機能、尿生成と排泄機能、体温調節機能、内分泌機能、生殖機能について学び、解剖学の知識を加え、ヒトの「生きる仕組み」の基本を理解する。ヒトの生理機能は、運動、成長発達、加齢、疾病、薬剤などにより変化する。「生理学Ⅰ」と共に、「運動生理学」、「老年学」、「人間発達学」、「病理学」、「内科学」、「薬理学」などの基礎となる科目である。	講義26時間 演習4時間
	生理学実習	生理学Ⅰおよび生理学Ⅱにおいて学んだ「ヒトの生理機能」に関する知識をもとに、学生自らが被験者となり、ヒトの生理機能の中、循環機能(血圧測定、心電図)、呼吸機能(電子スパイログラム)、神経機能(脳波測定)、感覚機能(体性感覚、視覚、味覚)、消化機能(咀嚼能力測定)、内分泌代謝機能(糖負荷、血糖測定)などを実習し、「ヒトの生理機能」についての知識理解を深める。加えて、実習レポートの作成および実習発表会を行うことにより、実習結果の考察およびプレゼンテーション技術を習得する。	
	運動生理学	解剖学や生理学および各実習において学んだ「ヒトの身体構造および生理機能」を基礎として、活動状態(運動時)および不活動状態(非運動時)における身体の構造および機能的特性を体系的に理解する。特に、運動時および非運動時の筋骨格系、神経系、呼吸循環系および内分泌代謝系の生理学的機能や特性、その適応変化について学ぶことで、医療現場や健康増進活動、スポーツ現場において必要とされる運動生理学の基礎知識を身につける。	講義20時間 演習10時間
	運動学Ⅰ	本授業科目では、身体運動を理解するうえで必要な運動器(筋骨格系、神経系)の基本構造と機能を学ぶ。さらに、身体各部位における関節の構造と機能を関節運動と関連づけて学習し、機能解剖学的視点から四肢ならびに体幹運動の仕組みについて理解を深める。	講義20時間 演習10時間
	運動学Ⅱ	本授業科目では、生体力学の基礎知識を身につけ、姿勢や身体運動の仕組みを力学的視点から理解できるようにする。また、その発現と制御過程、運動技能の発達と学習について、神経生理学ならびに心理学的視点から学習する。	講義20時間 演習10時間

(リハビリテーション科学部 理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	運動学実習	本実習では、「運動学Ⅰ」および「運動学Ⅱ」で身につけた知識をもとに、種々の身体運動・動作を実際に観察、計測することを通して、身体運動・動作の仕組みについて理解を深める。また、その際に用いられる観察、計測手法を学び、身体運動・動作を分析する基礎能力を身につける。実習はテーマ毎に小グループに分かれて行い、分析結果をグループ内で討議してレポートにまとめる。	
	老年学	老年期にある人を理解するために、加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化と老年期に特徴的な疾患による生活への影響について学ぶ。さらに、高齢者を支援するための権利擁護の視点や、包括的なチームアプローチについて学ぶ。 (オムニバス方式／全8回) (38 山田律子／4回) 加齢と老化、加齢に伴う心身の変化、老年期の発達課題、高齢者への支援等について学ぶ。 (55 萩野悦子／4回) 高齢者の権利擁護、高齢者の生活等について学ぶ。	オムニバス方式
	人間発達学	誕生から死までの全生涯を通して、人間がどのようにして発達していくのか、またどのような要因が発達に影響するのかを教授する。人間発達を理解する上で重要となる理論背景について学習し、また人間の発達を、胎児期から乳幼児期、成人期といったライフステージからの視点、形態・機能的側面からの視点、さらには認知的および情緒・社会的側面からの視点をもとに学習し、人間の発達に対する総合的な理解を深める。 (オムニバス方式／全8回) (6 堀本佳音／4回) 人間の発達に関する基本的な理論を説明し、また人間発達について、ライフステージ(胎児期から乳幼児期)および形態・機能的側面から解説する。 (25 木村恵／4回) 人間の発達を、ライフステージ(幼児期から成人期)および認知的、情緒・社会的側面から解説する。	オムニバス方式
	医学概論	これから学ぶ医学系授業のオリエンテーションとして、当学部で医学を学ぶ意義と目的、21世紀に至る医学の進歩を概観し、特に、放射線物質、ワクチンや抗生物質、遺伝子の二重らせん構造、プリオン蛋白など、重要な医学上の発見の今日的意義について解説する。医学の社会的普及を目的とする医療に関しては、倫理としてのインフォームド・コンセントの歴史的意義、今日に至る疾病構造の変化と治療目標の変化、21世紀の保健医療の課題および法・制度や行政政策について国際的に比較しつつ学ぶ。	
	病理学	病理学は、病気の成り立ちを探究する学問であり、医療従事者にとって不可欠な学問である。生理学などで学習した正常な細胞、組織、器官の形態が病気によってどのように変化するか、または、正常な生体機能が障害された場合、どのような病態に進展するかを学習する。 (オムニバス方式／全8回) (39 安彦善裕／4回) 病因論、代謝障害、炎症・感染症、免疫と免疫異常 (69 山崎真美／4回) 増殖と修復、循環障害、腫瘍、遺伝性疾患・奇形	オムニバス方式
	整形外科	骨・関節・神経・筋組織をはじめとする運動器に発生する主な外傷および疾患について、病態生理、症候、予後、診断方法、一般的治療法、さらにはリハビリテーション医療への展開について整形外科的観点から学習する。これらを通じて、理学療法および作業療法を実践するうえで必要となる整形外科疾患の基礎的知識と治療概念を習得する。	
	内科学	内科疾患の系統分類に従い、解剖学、生理学、生化学および薬理学の関連事項をふまえ、総論・各論と講義を進める。理学療法および作業療法で最低限必要な内科疾患の病理的背景や概念、および内科的治療による影響などを解説すると共に、一般的医学知識としての内科学、特に生活習慣病について重点的に講義を行なう。 (オムニバス方式／全15回) (40 家子正裕／5回) 内科学総論、血液学、アレルギー・膠原病学、感染症・中毒 (56 高橋伸彦／5回) 内分泌代謝学、消化器学(含:肝胆膵)、腎臓学 (41 伊藤昭英／2回) 呼吸器学 (62 岸本憲明／3回) 循環器学	オムニバス方式

(リハビリテーション科学部 理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	神経学	主な神経疾患（神経難病を含む）の原因と病態、症状と神経徴候、経過と予後、診断と治療、リハビリテーションとケアについて学ぶ。特に、パーキンソン病や筋委縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症などの神経変性疾患、出血や梗塞などの脳血管疾患、脳外傷や脊髄損傷、神経腫瘍、多発性硬化症などの脱髄性疾患、ウイルス性脳炎やプリオン病などの感染性疾患、進行性筋ジストロフィー症や多発性ニューロパチーなどの神経筋疾患、水俣病や一酸化炭素中毒などの中毒を中心に解説する。	
	小児科学	小児は、出生時から思春期に至るまで、身体・神経の発達の段階で、さまざまな疾患や発達障害を生ずる。また、出生直後の新生児の病態は、その後の生涯の生活に影響する。小児の理学療法を学ぶためには、小児の出生からダイナミックに変化する正常発達と、それぞれの障害・疾患を理解していなくてはならない。新生児・乳幼児・学童・思春期における正常と病態を理解し、小児保健学、小児診断学、小児疾患病態学などの知識を修得する。	
	精神医学	総論として精神医学の概念と歴史、精神障害の成因と分類（ICD、DSM）、画像や精神医学的診察、画像などの診断法、心理検査や各種の評価尺度、主な精神症状と症候群の特徴について学ぶ。疾病論はICD-10に基づき、器質性精神障害（症状性を含む）、精神作用物質性精神障害（アルコール、薬物、タバコ）、統合失調症、気分障害（うつ病や躁うつ病）、てんかんについて、病因・病態、診断と評価、症状および障害特性、経過と予後、治療とリハビリテーションなどについて学ぶ。	
	病態運動学	理学療法・作業療法の対象となる運動や動作の障害は、筋や骨関節といった効果器の障害によるものから、脊髄や小脳などの下位運動中枢、一次運動野や補足運動野、運動前野といった上位中枢の神経障害によるものまで幅広い。本科目では疾病や外傷などにより生じた運動障害や異常歩行などの動作障害について、その特徴および発生メカニズムについて基本的知識を習得するとともに、運動学的分析手法について学習する。 (オムニバス方式／全15回) (5 吉田晋／7回) 筋力低下、痛みといった一般的な病態および脳卒中やパーキンソン病、小脳疾患などによる運動障害や姿勢調節障害について講義および演習を担当する。 (7 武田涼子／4回) 骨折や変形性関節症などの運動器障害による運動障害について講義および演習を担当する。 (6 堀本佳誉／4回) 脳性麻痺、筋ジストロフィーなどの発育発達期に発生する運動障害について講義および演習を担当する。	オムニバス方式 講義20時間 演習10時間
	高次脳機能障害学	高次脳機能とその障害に関わる歴史と概念、高次脳機能に関わる神経学的基盤と大脳半球の左右差、脳血管障害と外傷性脳損傷、他の脳疾患に出現する高次脳機能障害の特徴について解説する。次いで、失語・失行・失認など、臨床場面で遭遇する主な高次脳機能障害に関して、原因と病態、症状と分類、評価法、治療とリハビリテーションについて、事例の検討を含めて学ぶ。さらに、高次脳機能障害支援事業や当事者団体の活動など、医療や地域ケア、福祉制度の動向についても学ぶ。	
	臨床心理学	臨床心理学は、さまざまな問題の理解と解決に心理的要因が大きく関与していると思われる個人を心理学的な立場から理解し、問題解決を図ろうとする学問である。臨床心理学を支える理論にはさまざまなものがあるが、近年は認知行動的な立場から問題を理解し解決を図る行動理論に基づく考え方が主流となっている。本講義では、臨床心理学の基本的な考え方を概説するとともに、行動理論による問題の理解と解決方法を解説しながら、最新の臨床心理学の進歩について学ぶ。	
	薬理学	薬物の作用や副作用の発生機序などの薬物が生体に対して与える影響や、薬物の体内動態などの生体が薬物に与える作用に関する基礎的な知識を学習する。さらに、これらの基礎的な知識を臨床薬理学的な視点で理解し、臨床面に結びつけ応用する能力を習得する。	
	公衆衛生学	公衆衛生学は健康に基礎をおいた保健科学の一領域であり、将来理学療法士、作業療法士として医療の分野で指導的立場になろうとする者が身につけるべき素養であり、必須の学科目である。この知識および技術の基礎を理解、習得し、あわせて人類の健康と福祉の向上に寄与する指導者としての責任感と社会性を身につけることが目的である。 (オムニバス方式／全8回) (43 千葉逸朗／4回) 序論、疫学、生活習慣病、栄養と健康、人口問題、社会保障制度 (63 水谷博幸／4回) 感染症の予防、環境と健康、地域保健、母子保健、学校保健、産業保健、高齢者保健	オムニバス方式

(リハビリテーション科学部 理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	栄養学	<p>栄養は身体のエネルギー源であると同時に、身体の構成要素である。栄養は過剰でも不足でも心身機能に大きな影響を及ぼすため、リハビリテーションに求められる全人的な評価の一つの要素として患者の栄養状態を正しく評価することが求められている。本科目では、各栄養素の基本的な性質や働き、食事摂取基準や基本的な栄養評価方法を理解するとともに、身体における栄養の役割を学習し、医療者に求められる栄養学の基礎を構築することを目標とする。</p>	
	リハビリテーション概論	<p>リハビリテーション医学の基本的概念や特徴、各種障害像の分類、リハビリテーションの内容と方法を含めた基本的アプローチ（医学的、社会的、職業的、教育的）等について、その歴史や社会制度、リハビリテーションに携わる関連職種との連携を含めて総合的に学習する。またリハビリテーションの対象となる方たちを中心としたチーム医療体制や地域連携について討議を行い、ノーマライゼーションの概念を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(17 上野武治/8回) リハビリテーションの概念および特徴、歴史的背景、社会制度および各障害像の分類等について講義する。 (2 泉唯史/4回) リハビリテーション医療の基本的アプローチおよび関連法、リハビリテーションに携わる関連職種の理解について、おもに身体障害領域の視点から講義する。 (15 鎌田樹寛/3回) リハビリテーション医療の基本的アプローチおよび関連法、リハビリテーションに携わる関連職種の理解について、おもに精神障害領域の視点から講義する。</p>	オムニバス方式
	保健医療福祉論	<p>理学療法や作業療法実践の土台となる、わが国の保健、医療および福祉制度（公的介護保険制度、障害者自立支援法、難病患者等支援制度）の成り立ち、現状、課題、各制度間の関係性等についての理解を深める。また、地域医療の現状や課題、セラピストが果たす役割等について、北海道内各地での実践例を紹介し理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(4 鈴木英樹/5回) 公的介護保険制度、障害者自立支援法、難病制度の概説 (81 加賀谷芳夫/1回) 胆振地区での実践報告 (82 森茂樹/1回) 十勝地区での実践報告 (83 菊地啓介/1回) 北海道地域リハビリテーション広域支援センターでの実践報告</p>	オムニバス方式
	障がい者当事者論	<p>身体的・精神的障がいを持ち、社会的支援を必要とする当事者や家族について、その生活の実際を把握する。また当事者のニーズに基づいた社会制度の活用方法を探り、差別・偏見を克服するための活動を学ぶことで、人間存在の多様性とエンパワーメントの視点を有したリハビリテーション実践法を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(4 鈴木英樹/8回) 身体的な障がいを持ちながら地域で生活する当事者や家族の事例を通じ、当事者がかかえる潜在的ニーズや課題を導き出す方法を探る。 (21 浅野葉子/7回) 精神的な障がいを持ちながら地域で生活する当事者や家族の事例を通じ、当事者がかかえる潜在的ニーズや課題を導き出す方法を探る。</p>	オムニバス方式

(リハビリテーション科学部 理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	作業療法概論	対象者個人を尊重し、心身の両面から「人が作業を出来るように援助するための考え方」を習得することを目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (15 鎌田樹寛/6回) 作業療法の歴史的発展を捉えて社会の変容のなかで、社会の変化に应答した医療・保健・福祉のなかでの作業療法の役割を概説し、作業療法の事例を紹介する。 (16 本家寿洋/3回) 身体障害領域における作業療法の役割について概説し、事例を紹介する。また、障害者体験を通じ作業への参加や環境について考える。 (19 浅野雅子、26 児玉壮志/2回) 精神障害領域における作業療法の役割について概説し、事例を紹介する。 (21 浅野葉子/1回) 地域における作業療法の役割について概説し、事例を紹介する。 (22 朝日まどか/1回) 慢性期疾患における作業療法の役割について概説し、事例を紹介する。 (25 木村恵/1回) 小児領域における作業療法の役割について概説し、事例を紹介する。 (23 澤村大輔/1回) 高次脳機能障害者への作業療法の役割について概説し、事例を紹介する。	オムニバス方式
	作業適用学	作業療法の中核的概念である「作業」についての理解を深め、その基礎的適用方法について習得することを目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (15 鎌田樹寛/10回) 作業療法における作業の歴史的な背景を踏まえた定義と分類、人が作業を通して獲得される「技能」や「遂行」および「参加」に関する生物・心理・社会・文化的関連性、作業の治療的応用についての理解、ならびに生活の質と作業療法の関連を学習する。 (15 鎌田樹寛、16 本家寿洋、19 浅野雅子、21 浅野葉子、22 朝日まどか、25 木村恵、23 澤村大輔、26 児玉壮志/5回) 講義を踏まえた関連論文からのグループ討論やプレゼンテーションを実施して理解を深める。	オムニバス方式
	積雪寒冷地の生活と諸問題	北海道の風土と生活について理解を深めるため、道内各地域の個性ある風土から形成された産業、文化の特徴、生活上の諸問題を、具体的な事例をあげながら分析し、そのことを通して地域理解と地域の課題解決のための糸口を学習する。また、積雪寒冷地が抱える生活課題を調査するとともに、その問題の解決方法について、関係機関と情報交換を行いながら具体的提案を行う。	
専門科目	理学療法概論	理学療法の定義やリハビリテーションの枠組みの中での位置づけと役割、理学療法の対象や治療の流れのほか、理学療法士が活躍する、あるいは活躍が期待される分野、理学療法士のさまざまな学術分野や学術活動について講義する。また専門職としての理学療法士がさまざまな研究活動を行うことの重要性についても、カリキュラムの概要を説明しながら講義を行い、理学療法士に関連する法規、社会的役割、歴史、哲学、倫理も含めた理学療法を概観し、専門科目に向けた学習のための基礎知識を習得する。 (オムニバス形式/全15回) (2 泉唯史/8回) 理学療法の定義や概念、歴史的背景を中心に、理学療法分野の相対的枠組みについて講義を行う。 (4 鈴木英樹/7回) 理学療法の治療の対象や保健医療福祉領域における位置づけ、理学療法士の社会的役割などを中心に講義を行う。	オムニバス方式
	基礎理学療法学	理学療法の基礎的内容の紹介と理学療法士の役割について講義を行う。また理学療法分野における検査・測定に用いる機器について、使用目的と実際の使用方法について見学する。 (オムニバス方式/全15回) (5 吉田晋/3回) 脳血管障害、神経障害の理学療法、筋機能解析システム (3 小島悟/3回) 地域における理学療法、在宅支援、物理療法機器 (7 武田涼子/3回) 運動器障害の理学療法、3次元動作解析システム (8 高橋尚明/3回) 内部障害の理学療法、解剖学と理学療法、呼吸ガス分析システム (6 堀本佳誉/3回) 発達障害の理学療法、地域における発達障害支援	オムニバス方式

(リハビリテーション科学部 理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	理学療法管理・運営論	病院・施設の中で理学療法部門はそれが単独で機能することではなく、全体の管理運営の中に組み込まれている。それは必然的に職種の異なる医療従事者の部署同士の関係を、全体の枠組みの中でとらえていく必要があることを意味する。医療行政と保険制度、病診連携とそとのチーム医療、理学療法部門の位置づけと役割、院内感染対策、診療記録や他の記録の意義と運用、環境整備や事故対応策などについて考察しながら、臨床現場における理学療法が効果的に実施できるためのマネジメントを学習する。	
	理学療法研究法	自然科学、社会科学を含めた理学療法学における研究の基本的な考え方を学習する。研究の企画および実践に必要な、倫理、実験計画、データ分析、考察、論文の書き方などの知識を学習する。また、データ分析時に必要な統計処理ソフトの使用法、考察時に必要な文献検索方法、論文の読み方などについても学習する。	
	理学療法英文原著読解	理学療法の臨床分野・研究分野における継続的な知識の蓄積には、学術テキストや文献をはじめとする英文原著からの情報収集能力を身につけることが必須である。本演習では、理学療法関連分野における基礎的な英文原著の読解を通して、英文文献の検索方法を習得し、また理学療法関連の語彙を構築することで、学内外での実習や卒業研究、さらには、生涯にわたるセラピストとしての専門知識習得に必要な英文読解能力を身につける。	
	医療コミュニケーション	患者にとって良い医療とは、患者と医療者との間で、適切な医療技術の提供および良好なコミュニケーションが成り立つことで達成される。患者および医療者間における信頼関係の確立や適切な医療情報の提供方法について、コミュニケーションの理論と実践方法を中心に学習し、医療現場において必要とされる総合的なコミュニケーションスキルを身につける。	
	理学療法基礎評価学Ⅰ	<p>評価は、効果的な理学療法を実施するうえできわめて重要な理学療法プロセスに位置づけられる。本科目では、評価の意義や目的、その一連の進め方（情報収集、記録、結果の統合と解釈、再評価まで）について学習する。また、理学療法における基本的検査・測定技術である形態計測法、関節可動域測定法、筋力測定法、整形外科的特殊検査法について講義および演習を通して習得する。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(3 小島悟／3回) 理学療法評価総論、形態計測法、関節可動域測定方法の意義について講義を担当する。</p> <p>(7 武田涼子／3回) 筋力測定、整形外科的特殊検査法の意義について講義を担当する。</p> <p>(3 小島悟、12 長谷川純子／12回) 形態計測法、関節可動域測定法の演習を担当する。</p> <p>(7 武田涼子、10 宮崎充功／12回) 筋力測定法、整形外科的特殊検査法の演習を担当する。</p>	オムニバス方式
理学療法基礎評価学Ⅱ	<p>中枢神経障害、内部障害、発達障害等の各疾患に対する基本的評価の考え方とその評価技術の習得を目標とする。本科目では、それぞれの疾患や障害に対応した神経学的検査、協調性・平衡機能検査、呼吸・循環・代謝機能検査、運動発達検査を中心に、講義および演習を通して学習する。</p> <p>(オムニバス方式／30回)</p> <p>(5 吉田晋、14 大塚裕之／12回) 神経学的検査、協調性・平衡機能検査について講義および演習を担当する。</p> <p>(2 泉唯史、8 高橋尚明、11 澤田篤史／12回) 呼吸、循環、代謝機能検査について講義および演習を担当する。</p> <p>(6 堀本佳音／6回) 脳性麻痺等の発達障害の運動発達検査について講義および演習を担当する。</p>	オムニバス方式	
理学療法評価学総合演習	2年次後期に実施される臨床実習Ⅱ（検査測定実習）に臨むにあたり、これまで習得した知識を整理し、技能の向上および患者とのコミュニケーション、知識の具現化を図る。なお、演習では、学内において臨床現場を想定した医療面接や検査測定に関する客観的臨床能力試験（OSCE）を実施する。		
画像診断学	人体を対象とした各種の非破壊画像診断技術（X線単純撮影、X線造影検査、X線CT、磁気を用いるMRIおよび放射性薬剤を用いる核医学診断技術など）の基本的原理や特徴、正常画像と疾患によるその構造変化、代表的な疾患画像の診断方法などについて講義を行い、一般医学診療および理学療法・作業療法の臨床現場において必要とされる医学画像情報を理解するための基本的知識を身に付ける。		

(リハビリテーション科学部 理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	物理療法学	<p>物理療法は物理的なエネルギーを外部から人体に適応し、疼痛の緩和、循環の改善、リラクゼーションの目的で使用する治療法である。授業では、各療法の原理、生体に与える生理学的作用、実施上の適応と禁忌、物理療法プログラムの実際を理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(3 小島悟／18回) 物理療法の総論、超音波療法、電磁波療法、光線療法、牽引療法、水治療法とその実際について教授する。 (10 宮崎充功／6回) 温熱療法、寒冷療法とその実際について教授する。 (14 大塚裕之／6回) 電気刺激療法、バイオフィードバック治療とその実際について教授する。</p>	オムニバス方式 講義40時間 演習20時間
	運動療法学Ⅰ	<p>本科目では、運動療法の歴史、意義と目的などの基礎的概念を理解するとともに、活動・不活動による身体生理反応、運動処方 of 原理・原則、関節運動と筋収縮、運動制御および運動学習など、各種運動療法を実施するうえで必要となる基礎理論について学習する。また、これらの諸理論を実際の運動療法のなかでどのように応用していくかについても解説する。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(5 吉田晋／5回) 運動療法の概念、運動制御と運動学習について講義および演習を担当する。 (10 宮崎充功／5回) 活動・不活動による身体生理反応、運動処方の原理・原則について講義および演習を担当する。 (11 澤田篤史／5回) 関節運動と筋収縮について講義および演習を担当する。</p>	オムニバス方式 講義20時間 演習10時間
	運動療法学Ⅱ	<p>運動療法学Ⅰで学んだ運動療法の基礎的理論をもとに、実際の病態、障害に対してどのように応用していくかについて学習することを目的とする。運動療法が適応となる病態、障害には関節可動域制限や痛み、筋力および体力低下、麻痺や協調運動障害などによる運動、姿勢調節障害などがある。こうした各種の病態や障害に適応した運動療法の実際について講義および演習を通じて理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／15回)</p> <p>(5 吉田晋／5回) 関節可動域制限、痛みに対する運動療法について講義および演習を担当する。 (10 宮崎充功／5回) 筋力、体力低下に対する運動療法について講義および演習を担当する。 (14 大塚裕之／5回) 運動制御、姿勢調節に対する運動療法について講義および演習を担当する。</p>	オムニバス方式 講義20時間 演習10時間
	義肢装具学Ⅰ	<p>補装具と補助具について講義と演習を実施する。補装具の歴史、各補装具の構造と機能、ならびに支給に関わる諸制度について学習する。また、補装具の作成、装着、適合判定等の体験を通して、各種障害に適した補装具を処方できる基礎能力を養う。補助具については、歩行補助具と自助具、生活支援のための環境制御に関わる機器の構造と機能を学ぶとともに、その使用方法について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(7 武田涼子／5回) 補装具・補助具の歴史と分類、支給に関わる諸制度、靴型装具の構造と機能 (8 高橋尚明／4回) 体幹・下肢装具の構造と機能、補助具とその使用方法 (23 澤村大輔／2回) 上肢装具の構造と機能 (85 安田義幸／2回) 装具の作成 (86 高橋慎／2回) 車椅子、座位保持装置の実際</p>	オムニバス方式 講義20時間 演習10時間

(リハビリテーション科学部 理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	義肢装具学Ⅱ	切断に関する講義と演習を実施する。切断に関する医学的基礎知識、義肢の種類とその構造・機能、義肢を使用しての日常生活動作、切断患者に対する理学療法について学習する。 (オムニバス方式／全15回) (7 武田涼子／6回) 上肢・下肢切断の手術適応と経過・予後、義肢処方と支給制度、義足の種類とその構造・機能、義足歩行のバイオメカニクス (23 澤村大輔／1回) 義手の種類とその構造・機能 (8 高橋尚明／5回) 切断患者に対する理学療法 (7 武田涼子、8 高橋尚明、85 安田義幸、86 高橋慎／3回) 義足の採寸から適合判定まで	オムニバス方式 講義20時間 演習10時間	
	日常生活動作学Ⅰ	日常生活動作(ADL)についての基本的概念や、様々な日常の動作が生活に与える意味を理解するとともに、日常生活動作に関する様々な評価手法を学ぶ。また、国際生活機能分類(ICF)についての理解を通じて、日常生活動作の向上に向けて、様々な生活障害を有する方々に対応した支援内容を検討できるように体験学習を深める。 (オムニバス方式／全15回) (4 鈴木英樹／7回) 様々な疾患とADL、障害体験、様々な日常動作と生活における意義等 (8 高橋尚明／8回) ADLの基本的概念、評価手法およびICFの理解等	オムニバス方式 講義15時間 演習15時間	
	日常生活動作学Ⅱ	日常生活動作学Ⅰで学んだ知識を踏まえ、実際のADL能力向上に向けた具体的な手法について実践する能力を高めていく。具体的には、ベッド上での寝返りや起き上がり、ベッドから車いすへの移乗といった動作獲得のための指導方法および家族や関係者への介助方法の指導、住宅改修や福祉用具の選定などの環境調整も含め、疾患や障害の特性に応じた日常生活動作に対する援助方法についてバリアフリーラボを活用しながら習得する。 (オムニバス方式／全15回) (4 鈴木英樹／10回) 起居移動、食事、入浴に関する動作指導の実際、福祉用具の選定、住宅改修の実際 (8 高橋尚明／5回) バリアフリーラボを活用した疾患や障害特性に応じたADL支援	オムニバス方式 講義15時間 演習15時間	
	骨関節障害理学療法学	本授業科目では、骨折、軟部組織損傷、関節変性疾患、末梢神経損傷、脊髄損傷など、代表的な整形外科疾患に対する理学療法評価から介入プログラム立案までの一連の理学療法過程について学習する。また、理学療法を実践するうえで必要になる各疾患および病期を考慮したリスク管理に関しても理解を深める。		
	骨関節障害理学療法学演習	整形外科疾患に対する関節別機能評価、ならびに運動療法の基本技術を学生相互の実習を通して身につける。関節別機能評価では、機能解剖と疾患を関連付けて、アライメントや関節機能を評価する手法について学習する。運動療法については、器具を用いた筋力トレーニング、固有受容覚トレーニング、各種体操療法を学ぶ。また、整形外科疾患に対する理学療法評価から介入プログラム立案までの一連のプロセスを学習する目的で、大腿骨頸部骨折、肩関節周囲炎、変形性膝関節症、脊髄損傷を例にペーパーペイシェントを用いた演習を行う。		
	神経障害理学療法学	脳血管疾患や脊髄小脳変性症、パーキンソン病などの中枢神経系の変性疾患に対する理学療法的介入についてその病期や重症度に合わせた介入方法について理解する。中枢神経疾患の示す臨床徴候は麻痺や協調運動障害などの運動障害だけでなく、感覚障害や高次脳機能障害など多岐にわたる。また病期により臨床像が変化することも大きな特徴である。こうした臨床徴候とそのメカニズムを理解し、多様な側面から問題点にアプローチする方略の習得を目的とする。 (オムニバス方式／15回) (5 吉田晋／10回) 急性期のリスク管理、病期に応じた一般的プロトコル等について講義を担当する。 (14 大塚裕之／5回) 各種臨床徴候に対するアプローチについて講義を担当する。	オムニバス方式	

(リハビリテーション科学部 理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	神経障害理学療法学演習	脳血管疾患や脊髄小脳変性症、パーキンソン病などの中枢神経系の変性疾患に対する理学療法的介入について演習を通して学習する。各種疾患の典型例をペーパーペイシエントに用い、評価-問題点抽出-治療プログラム作成の一連のプロセスについてグループワークを通じて演習する。また基本動作や歩行練習などの基本的治療技術の実技実習により、実際の治療手技への統合を図る。	
	発達障害理学療法学	障害を持った子どもの正常運動発達からの逸脱を的確に評価し介入するために、正常な運動発達について、運動以外の発達との関連性を踏まえながら解説する。また理学療法の対象となる、発達段階において生じる中枢神経障害や末梢神経障害、筋骨格系障害を持った子どもについて、疾患の原因、症状、予後、運動機能を中心とした障害像を学習する。さらに、各々の疾患や障害に特有な理学療法の評価や介入の実際、およびエビデンスについて総合的に理解する。	
	発達障害理学療法学演習	発達障害理学療法学において学習した内容に基づき、発達段階に生じる中枢神経系障害や末梢神経系障害、筋骨格系障害など、理学療法の対象となる障害像を持った子どもに対する理学療法評価および介入について、体験を通じて実際の内容を理解する。講義や映像・画像を用いた演習、および学生相互の実技実習により、評価・介入の実際を体験して習得を促進する。また実際の臨床現場を見学することで、知識の整理と体験を統合する。	
	内部障害理学療法学	呼吸器系疾患、循環器系疾患、代謝障害系疾患など内部障害系疾患の基礎的病理や疾患概念、さらにそれらの疾患に罹患した対象者の障害像を理解する。また、内部障害系の各種疾患における理学療法評価と障害に対するリハビリテーションアプローチを学習する。 (オムニバス方式／15回) (2 泉唯史／10回) 循環器疾患および代謝障害系疾患の発生機序と病態、理学療法評価と症状に対するリハビリテーションアプローチを学習する。 (8 高橋尚明／5回) 呼吸器系疾患の発生機序と病態、理学療法評価と症状に対するリハビリテーションアプローチを学習する。	オムニバス方式
	内部障害理学療法学演習	内部障害理学療法学で習得した知識をもとに、理学療法評価とリハビリテーションアプローチの基本技術に関して、演習を通じ身につけることを目的とする。理学療法評価については、個々の評価項目の意義や評価項目間の関連性を理解したうえで評価を実施、結果を統合解釈し、介入プログラムの立案ができるようにする。また、リハビリテーションアプローチについては、徒手のアプローチや運動療法を学生相互に実習し、その基本手技や留意点などを学習する。さらに、予防的関わりとしての運動療法や生活改善について調査・検討を行い、必要な患者教育についても理解を深める。	
	理学療法治療学総合演習	3年次後期に実施される臨床実習Ⅲ(総合臨床実習)に臨むにあたり、これまで習得した知識を整理し、技能の向上および患者とのコミュニケーション、知識の具現化を図る。なお、演習では、学内において臨床現場を想定し、理学療法に関わる一連の臨床技能について客観的臨床能力試験(OSCE)を実施する。	
	スポーツ障害理学療法論	本授業科目では、スポーツ傷害に対する理学療法についての基本的知識と技術の習得を目的に、様々なスポーツ外傷、傷害の発生機序と病態について概説するとともに、代表的なスポーツ傷害に対する理学療法の実際について学習する。また、傷害予防・再発予防の見地からスポーツ現場で行われているメディカルチェック、コンディショニング、テーピング等の手法の実際を理解する。 (オムニバス方式／全15回) (87 前田克史／10回) スポーツ外傷・傷害の発生機序と病態、スポーツ傷害に対する理学療法の実際について解説する。 (88 大森達也／5回) スポーツ傷害に対する理学療法の実際について解説する。	オムニバス方式 講義20時間 演習10時間
	ハンドセラピー	ハンドセラピーの定義や理念を学習し、末梢神経損傷や腱損傷および骨関節損傷におけるハンドセラピーの具体的な評価と治療を学習し、最新の治療技術を実際の事例に基づいて理解する。 1. ハンドセラピーの定義や理念および歴史を学習し、理学療法および作業療法におけるハンドセラピーの意義と重要性を理解する。 2. ハンドセラピーの具体的な評価と治療を、種々の疾患に基づいて学習する。特に、ハンドセラピーの対象疾患として、多くの臨床実績をあげている末梢神経損傷や腱損傷および骨関節損傷における評価と治療を学習する。	講義7時間 演習8時間

(リハビリテーション科学部 理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	神経筋促通治療論	理学療法・作業療法における治療方法の一つとして、神経生理学的アプローチがあげられる。本科目では、種々の神経生理学的アプローチの概念と理論について学ぶ。具体的には、PNF、CI療法、ボバースコンセプト、認知神経リハビリテーション等を取り上げて、その基本的な概念および理論、治療方法を紹介し、理学療法および作業療法への適用可能性について解説する。また、それらのアプローチ法における現状の科学的エビデンスレベルについても学習する。	
	徒手療法論	理学療法および作業療法において、関節可動性の改善と疼痛の軽減に対する徒手の治療手技として関節モビライゼーションが用いられる。本科目では、関節モビライゼーションの治療原理、関節機能障害や痛みに対する評価ならびにその基本的治療手技について講義と演習を通して学習し、症候に適した関節モビライゼーション手技を選択できる基礎能力を身につける。	講義20時間 演習10時間
	リハビリテーション工学	リハビリテーション工学を理解するために、その歴史、手法、および実際の使用例について講義する。特に、理学療法士、作業療法士に必要な人体の制御機能特性と情報処理特性などに関して生体工学、人間工学、脳科学を中心に講義し、その特性に適合した福祉機器の選定や開発、利用方法について学習する。 (オムニバス方式／全8回) (16 本家寿洋／4回) リハビリテーション工学の歴史的背景およびその適応手法について、生体力学および人間工学の観点を中心に講義を行う。 (23 澤村大輔／4回) 各疾患の障害特性に応じた医療および福祉機器開発と実際の利用方法について、脳科学の観点を中心に講義を行う。	オムニバス方式
	地域理学療法学	施設や在宅等、生活障害を有しながら生活する人々に対し、理学療法士がどのように関わるべきか、どのような技術を発揮すべきかを念頭に置き、個々が確固たる信念を持って理学療法士として果たすべき役割や責任について学習する。また、地域における理学療法士の活動範囲について広く紹介し、最終的には、地域理学療法を通して、人々の地域生活を支えて行くという高い意識を持ち、医療機関のみならず地域の関係諸機関にて活躍するための知識と技術を習得する。	
	地域理学療法学演習	地域理学療法学で学んだ知識をもとに、様々な地域理学療法の実況や課題について総合的な理解を深める。また、介護予防事業や福祉のまちづくり関連活動の見学、さらには実際の事業への参画を通じて、地域における理学療法士の活動意義とその役割、将来展開について学習する。	
	生活環境論	生活環境支援の基本的理念と関連法規を理解し、地域環境も含めた生活環境整備における理学療法士の役割を把握する。また、人間の活動と環境の相互作用を理解し、高齢者や障がい者の生活支援のための生活環境評価や住環境整備の方法について具体的理解を深める。さらに、様々な疾病や障害により生ずる生活障害の軽減へ向けた住環境整備の具体的方策について、その立案および提案方法を実践的に習得する。 (オムニバス方式／全8回) (4 鈴木英樹／4回) ・生活環境支援の意義、基本的理念、関係法律の理解 ・日本の住宅特性、北海道の環境特性についての理解 ・生活環境整備に関する制度理解と関係職種の理解 ・福祉のまちづくり (12 長谷川純子／4回) ・様々な障害像に応じた環境整備案の提示 ・実際の提案方法についての解説	オムニバス方式
	国際協力と理学療法	理学療法学分野における国際協力・国際交流の実践の基礎となる、リハビリテーション国際協力論を学ぶ。発展途上国の保健医療事情を含めた世界の理学療法士の動向について理解し、またCommunity based rehabilitation (CBR) の概念および障害と開発について学習することで、国際協力における理学療法士の果たす役割を理解し、関連諸分野を含めた国際協力・国際交流における柔軟な問題解決能力を養う。	

(リハビリテーション科学部 理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	健康増進と理学療法	<p>近年の急速な高齢化や食生活習慣の欧米化、慢性的な運動不足といった様々な生活習慣の変化に伴い、肥満や糖尿病を含む生活習慣病の発生率が増加している。また産業保健分野では、労働環境の多様化により、労働者の健康状態の悪化や労働災害の増加が問題となっている。本科目では、健康増進や生活習慣病の一次予防を目的とした「21世紀における国民健康づくり運動」について学習するとともに、産業保健分野における理学療法士の取り組みについて理解する。</p> <p>(オムニバス形式/全8回)</p> <p>(4 鈴木英樹/3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康増進法 21世紀における国民健康づくり運動 産業保健分野における理学療法とその将来展開 <p>(11 澤田篤史/5回)</p> <ul style="list-style-type: none"> メタボリックシンドロームとその予防法 ロコモティブシンドローム 健康づくりのための運動指針 	オムニバス方式
	障害者スポーツ指導論	<p>本授業科目では、理学療法士として障害者にスポーツの楽しさを伝えられるとともに、スポーツ活動への援助ができるように、障害者スポーツに関する基本的知識や技術を身につける。授業では、障害者スポーツの意義や理念、歴史と変遷、障害者スポーツに関連する諸施策について学習する。また、様々な障害者スポーツの実践について事例を交えて紹介しながら、安全なスポーツ実践指導のための知識と援助技術を獲得する。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(3 小島悟/8回) 障害者スポーツの意義や理念、歴史と変遷、身体障害とスポーツについて解説する。また、障害者スポーツの実践について紹介する。</p> <p>(91 大須田祐亮/1回) 発達障害(知的障害を含む)とスポーツについて解説する。</p> <p>(26 児玉壮志/1回) 精神障害とスポーツについて解説する。</p> <p>(92 岡崎勇二/5回) 障害者スポーツに関連する諸施策を解説する。また、様々な障害者スポーツについて紹介する。</p>	オムニバス方式 講義24時間 演習6時間
	臨床実習Ⅰ	<p>本実習は、初期導入および早期体験として、実際の医療機関・保健および福祉施設において患者・利用者に接する初めての機会である。理学療法学を体系的に学ぶ上で、医療機関や各施設における理学療法士の業務全般の理解、関連職種との連携、医療機関および各施設の社会的役割などを把握し、さらに各種の障害や社会的課題を有する患者・利用者と実際に接することで、医療人として必要とされる全人的な視点を養う。</p>	集中
	臨床実習Ⅱ	<p>理学療法の治療対象となる疾病について、理学療法基礎評価学Ⅰや理学療法基礎評価学Ⅱ、理学療法評価学総合演習をはじめとする専門科目において身につけた知識をもとに、検査・測定といった基本的な理学療法評価を実施する。また収集された医療情報から障害像を分析する一連の過程を、担当患者(施設利用者)を通して経験・学習することで、総合的な理学療法介入を行うための基礎となる理学療法評価方法の実際を身につける。</p>	
	臨床実習Ⅲ	<p>専門科目および各実習において身につけた知識を基に、担当患者を対象とした理学療法評価を行い、理学療法プログラムの立案およびその実施方法、必要とされるリスク管理について実践的に学習する。医療機関のリハビリテーション部門において、臨床実習指導者のもとで上記の一連のプロセスを経験することで、実際の障害像の把握および患者の社会的課題やニーズを総合的に把握し、理学療法介入を行うための基礎を身に付ける。</p>	
	臨床実習Ⅳ	<p>これまでに学習した専門知識および臨床実習における経験をもとに、特に理学療法評価、理学療法プログラムの立案と実施、理学療法実施後の再評価および報告、理学療法プログラムの追加変更に主眼をおいた実習を行い、実際の医療機関での症例担当を通じて総合的な理学療法のプロセスを経験する。さらに担当症例のレジュメ作成や報告、チーム医療体制の経験・情報交換などを行うことで、医療専門職種としての総合的な役割を理解する。</p>	
	臨床実習Ⅴ	<p>介護老人保健施設や障害者施設において、理学療法士が実施している基本的業務(個別理学療法や集団指導)を体験するほか、リハビリテーションおよび介護分野の周辺職種が行っている業務の体験や、各種会議および行事への参加を通して、施設における理学療法士の果たすべき役割や他職種との連携における勘所等についての見識を深める。</p>	

(リハビリテーション科学部 理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	理学療法総合講義	本授業科目は理学療法学の集大成科目として、3年半にわたって学んできた理学療法学に関する基礎および専門分野の学習成果を振り返り、理解が不十分であった項目を補いながら、理学療法士として必要な知識の整理統合を図る。	
	理学療法研究セミナー I	全学教育科目、専門基礎科目および専門科目において学んだ知識を基盤としながら、少人数のゼミ形式を基本とした指導体制のもと、文献検索方法の学習や論文抄読を通じて、理学療法学分野における新たな研究課題を探索する。	
	理学療法研究セミナー II	理学療法研究セミナー I で探索した研究課題について、文献検索および抄読を発展的に進め、研究計画を立案し実施する。さらに得られた研究結果の分析および考察、研究論文としてのまとめ、成果の報告（プレゼンテーション）を行うことで、理学療法学分野における研究方法の実際を習得し、学術的視点からの研究実践能力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要

(リハビリテーション科学部 作業療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全 学 教 育 科 目	基礎ゼミナール（コミュニケーション実践論）	初年次の学生が、大学の教育環境に早い時期から適応することは重要である。高校までの受動的な学習から能動的で自律的な学習態度への転換を図ることを本授業の目的とする。本学部・学科の教員が出動して、少人数グループ形態で実施する。グループワークを通して、調べる・整理する・まとめる・伝えるの力を身につける。また、自らの活動の振り返り作業も行う。それらの一連の活動を通じて、コミュニケーションやプレゼンテーションの能力を培い、ものの見方や考え方などの知の技法を学ぶ。	
	文章指導（日本語の表現）	本講義では、大学生活を送る上で必要となる日本語表現力や社会人として求められる基礎的な日本語表現力を身につけることを目的とする。大学生として必要なノートの取り方やメールの書き方、レポートの書き方やプレゼンテーションの方法などを講義と演習を通して学ぶ。また、臨床実習など学外の実社会で求められることの多い敬語の基礎や確実な連絡メモの取り方、他者への説明の仕方などについても同様に講義と演習を通して学ぶことで幅広い表現力を身につけることを目標とする。	
	人間と思想（心理学）	心理学とは、人間の行動や心的過程を科学的に探求する学問である。対象とする領域は非常に広く、基礎分野から応用分野まで多岐にわたる。本講義では、心理学に関する広範な領域の中から代表的なテーマをとりあげ概説することによって、心理学の基本的発想を学ぶとともに心理学がどのようにわれわれの生活と結びついているかを理解する。また、医療の中での最近の心理学のテーマについても取り上げ、医療の中で心理学が果たす役割について理解する。	
	人間と思想（死生学入門）	死生学が求められているのは、医療現場だけではなく。特に、高度の医療専門職業人を育てる教育現場でも〈死生観教育〉への強い要望があり、学生たちに「いのちの尊厳」について教えることが求められています。死に向き合う術を見失った現代、そして、葬送儀礼や墓制が急速に変化し、慰霊や追悼のあり方にも論争が生じている今こそ、死だけを切り離して考察するのではなく、生殖や誕生、病や老いといった人生の危機にどう向き合うか、これらも死生学の重要な課題なのです。	
	人間と思想（哲学入門）	哲学は、本来原理的、批判的思考であり、その意味で諸学問や世界を生きるいわば根幹を模索する営みである。この哲学の本来の意味を訪ね、また科学的な世界の本質を考察する。教員による講義だけでなく、小レポートの活用により紙上討論の形もとり、一方的な知の伝達ではなく、自ら考え、また相互の意識交通を図る内容とする。哲学の原理的、批判思考と科学的思考の違いを知ると共に、現代を理解し、生き抜くために、問いの転換に着目し、越境的、冒険的な知に迫ることで、世界や自己について理解する。	
	人間と社会（医療の経済学）	医療経済学は、医療の現場で起こっている様々な現実を経済学の視点でとらえ、医療と経済の望ましい関係を明らかにするための学問である。この講義では、少子高齢化やグローバル化や財政赤字の累積という21世紀の厳しい諸条件の下で進まざるをえない医療保障制度の再編の方向性について考えることを中心課題とする。	
	人間と社会（医療の法学）	法学の基礎を学んだ上で、医療に関する法について学習する。 1. 法律や法学に関する基本的知識を身につける。 2. 法を学ぶことを通じて、社会に対する広い視野と深い洞察力を身につける。 3. 医療や福祉に関する法の体系、法の意義・作用の基礎について学ぶ。 4. 医療や福祉に携わる者の資格や業務、責任の基礎について学ぶ。	
	人間と社会（国際社会福祉論）	グローバル化が進行する現代世界において、医療や福祉は国際的な結びつきの中で捉えるべき問題となっている。この講義では、発展途上国における貧困や疾病の問題、国際援助のあり方をめぐる問題など、人の健康や安全を害する世界の様々な問題について取り上げ、自ら調べ、考え、発表し、討論することを通じ、国際的な視点から医療や福祉の課題について理解し、説明できる能力を習得する。 (オムニバス方式／全15回) (49 花渕馨也／5回) アフリカが抱える貧困や疾病、紛争などの問題について取り上げる。 (29 半田祐二郎／5回) スリランカやアフリカなどの公衆衛生と国際援助の問題について取り上げる。 (24 千葉芳広／5回) 東南アジアの経済的貧困の問題などについて取り上げる。	オムニバス方式

(リハビリテーション科学部 作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学教育科目	人間と文化（文化人類学）	ヒトは生きるための先天的な能力に代わり、自らの生き方＝文化を後天的に学習することによって生きることを選択した生物である。この講義では、文化的存在としてのヒトの生の根源について考察するとともに、世界の多様な文化についてとりあげ、異なるものの方や価値観をもつ異文化を理解するための視点と方法について学ぶ。異質な他者との比較を通して、自分たちがあたり前とする自文化に拘束された考え方を見直し、文化的存在としてのヒトの普遍性と多様性について理解し、説明できる能力を習得する。	
	人間と文化（環境の歴史）	人間と環境との関わりの歴史を講義する。現代の人間社会において、環境問題は最優先に取り組むべき課題である。とりわけ人間の健康は、自然環境や社会経済の変化と密接な関係を持っている。具体的には、地域間の文明交流や人間の開発行為が自然や社会経済の環境を作り変え、また人間がその影響を受けてきた歴史を考察する。取り上げるテーマは、感染症の流行、森林伐採などである。	
	人間と文化（国際文化比較論）	世界には独自のものの見方や価値観をもつ多様な文化が存在しており、異なる文化をもつ人々のあいだで摩擦が起こり、ひどく対立し合うこともしばしばある。多様な文化をもつ人々がいかに平和に共生することができるのかは、グローバル化が進む現代世界の大きな課題である。この講義では、多様な異文化に触れ、その差異を学ぶことを通じ、他者との共生の道について考えるための国際的視野と異文化理解の方法を習得する。 (オムニバス方式／全15回) (49 花渕馨也／5回)アフリカの文化について取り上げる (30 ハワード・ターノフ／5回)アメリカの文化について取り上げる。 (29 半田祐二朗／5回)スリランカやアフリカの文化について取り上げる。	オムニバス方式
	自然と科学（生命科学）	「生命とは何か」、「ヒトとは何か」を科学的に追求し、人間についての理解を深めることを本授業の目的とする。遺伝子科学は多様な分野を巻き込みながら発展し、新たな生命像が浮き彫りになっている。授業では、最初に生命の「中心教義」について学び、ヒトゲノム構造の特徴を理解する。それらの分子生物学的な知識を土台にして、さらに「ABO式血液型と遺伝子」・「がんとがん遺伝子」・「肥満」・「体内時計」・「性の分化」・「個体の老化」・「免疫にみる自己と非自己」・「脳と心の働き」などについて学ぶ。	
英語Ⅰ（オーラル・イングリッシュA）	This course is designed to increase the level of oral skills by a multi-media driven approach Students are placed in a variety of everyday situations in order to practice their oral skills Listening is a key element for this class and will enhance the development of overall communicative competency. (和訳) この講義ではマルチメディアを使用し、日常のさまざまな状況下に学生を置いてオーラルスキルのレベルを向上させることを目的とする。リスニングはこの講義の重要な要素であり、総合的な英語伝達能力の向上を図る。		
英語Ⅰ（オーラル・イングリッシュB）	This course is designed for students who will enter healthcare related professions upon graduation. The student will be taught the English names of all major parts of the body and some of the illnesses and conditions that can affect it. Exposure to healthcare terminology and a wide variety of situations that can take place in and around a hospital will be presented. (和訳) この講義では卒業後に保健医療に携わる学生のために、主な身体の部位や病気および健康状態の英語名を教え、活用できるようにする。保健医療の専門用語や病院などで発生する様々な状況を学ぶ機会を与える。		
英語Ⅱ（英語A）	英語によるコミュニケーションを積極的に図ろうとする態度の育成を目指す。平易な英語で書かれたり話されたりする内容を的確に理解し、それに対する自分の考えを適切に伝える能力を養い、それを社会生活において活用できることを目指す。また、異文化間能力の養成を目標にし、英語を通じて、外国の事情や異文化について理解を深めると同時に、異文化が接触する際に生じる否定感情をコントロールする能力を養うことを目指す。さらに自分の専門分野の基礎的なテーマに関する英語を的確に理解する能力を養う。		
英語Ⅱ（英語B）	英語によるコミュニケーションを積極的に図ろうとする態度の育成という点で英語Aと共通である。英語Aを土台として、標準的かつ専門的な英語で書かれたり話されたりする内容を的確に理解し、それに対する自分の考えを適切に伝える能力を養い、それを社会生活において活用できることを目指す。また、英語Aで養成した異文化間能力をさらに高め、より職能人を意識した応用力養成に視点を移す。つまり、自分とは異文化に生きる他者、患者、他の医療人と円滑にコミュニケーションが図れるような異文化間能力を養成する。		

(リハビリテーション科学部 作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学教育科目	中国語（中国語）	このクラスでは、中国語の発音、文法および会話と、ゼロからの学習者を中心に講義を展開する。とりわけ、日本人学習者にとって最難関といわれる発音（四声）に関して、徹底した指導を行うとともに、学習者に苦手意識を持たせぬよう、日常に役立つフレーズや文法事項を分かり易く解説しながら、学習者が中国語を話すことに楽しさを感じられるよう期待する。また、語学的指導以外に、中国の文化や習慣の違い等についても、日本と比較しながら触れてゆく。	
	韓国語（韓国語）	韓国語の入門過程として、文字や発音の紹介、そして基本文型を中心にした韓国語の仕組みが解るよう基礎的文法の解説をまじえながら辞書を用いて韓国語の文章が理解できるように説明する。また、韓国人との交流や生活文化の理解に役立つ簡単な日常会話ができるように、500から800ぐらいの単語習得を目標に読み書きと共に基礎会話の練習を並行して行う。	
	フランス語（フランス語）	フランス語のしくみについて、音の綴りの対応関係基本的言語構造、フランス語と英語の共通性と異質性などについて理解する。	
	ドイツ語（ドイツ語）	この授業は、簡単な会話文と初級文法を中心に学ぶ初級者のためのドイツ語講座である。ドイツ語の読み・書き・会話における基礎的な力を身に付けることを主な目標としている。また、ドイツ語圏の現状や文化についても理解を深めるために、ドイツ語と日本語の違い、あるいはドイツ人と日本人の価値観の違いについてなど様々な問題提起を行っていく。さらに、言語を通して異文化に触れることで、多文化共生の問題にもアプローチしていく。	
	情報処理演習（情報処理演習）	コンピュータのリテランススキルを習得する科目である。本講では主として、文書作成、表計算、プレゼンテーション、およびインターネットの活用に関する演習を中心に進める。	
	統計学（基礎統計学）	保健医療の分野において、研究、調査、診療などによって得られるデータは、多量で複雑であったり、バラツキがあったりすることが多いが、実際には有用な情報を含んでいる。基礎統計学では、このようなデータから全体に関する有用な情報を引き出す方法を学ぶ。	
	健康・運動科学演習（運動科学演習）	「健康・体力づくりに関する基礎的知識、運動の必要性、および科学的根拠に基づいた具体的な運動トレーニング法について演習形式で学習する。また、スポーツ活動の実践を通して、社会性、健康・体力の維持増進、QOL (quality of life) の向上を図る。このような学習によって、健康・体力の維持増進を図るための実践的な能力を身につける。	
	自然科学入門（基礎数理）	基礎専門科目や専門科目を学習するのに必要な数学の基礎を学習する。高校までの算数・数学を再確認し、自然科学を学ぶ上で必要な数学的素養と思考力を身につける基礎を養う。	
	自然科学入門（物理学）	身近な物体の運動を題材として、運動の表し方や運動する物体が従う法則について説明し、運動量や力学的エネルギー等の力学の基本概念を解説する。また、静止した物体に作用する力のつり合いを題材として、力のモーメントや重心等の静力学の基本概念についても解説する。更に、音や光の波動現象を取り上げ、波動の概念および反射や回折等の波動が従う法則について説明し、医用工学の基礎となる超音波や電磁波およびX線の物理について解説する。	
	自然科学入門（生物学）	ヒトにまつわる生物学の諸分野を幅広く学び、「生物の原則」を知る。また医療系教育で必要な「ヒトに関する基本」を身につけることを本授業の目的とする。あらゆる生命体は、「生命の単位」・「生命の維持」・「生命の連続」という点において共通するしくみをもつ。それらの内容についてヒトを中心に学ぶ。また、それらのしくみとは一見相矛盾する「生命の多様性」についても理解を深める。高校「生物」未履修の学生に対しても、無理なく学習できるように授業を進める。	
自然科学入門（化学）	生体内で起こる化学反応は生命活動を支える源として、あるいは精神活動に大きな影響を及ぼしており、また、身体を構成する筋、骨組織などの構成成分はすべて化学物質から成り立っている。これらの化学反応と化学物質の性質や特徴を理解することは、理学療法や作業療法など人の活動をサポートしていく上で重要な基礎的知識の一つとなる。本講義では、物質や物質を構成する原子、それらの繋がりにより生み出される物質の化学的性質、また、それが担う基本的な理論・法則を理解することにより、リハビリテーション科学を学ぶものに必要な化学的理解力、応用力を身につけることを目的とする。		

(リハビリテーション科学部 作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学教育科目	個体差健康科学（個体差健康科学）	この講義では、本学行動指針としての「個体差健康科学」の思想について学んだ後、四つのテーマに沿って「個」という問題を考えていく。＜①個と社会＞では、幸せで健康な社会を築くためには、個人と社会がどのような関係をもつべきなのかという問題を考える。＜②個の健康と環境＞では、個人の健康がいかに自然環境や社会環境と切り離せないものであるかを学ぶ。＜③遺伝子と個体差医療＞では、最先端の遺伝子やゲノム研究の基礎を学ぶとともに、その応用による個体差医療の未来像と倫理問題について考える。＜④個のためのケア＞では、ひとりひとりの個体差と人格の尊重に基づいた医療や福祉のこれからのあり方として、当事者を主体とした福祉の考え方や、諸分野の連携によるチーム医療の必要性について考える。 (オムニバス方式／全15回) (49 花淵馨也／1回) 概論・ガイダンス (44 廣重 力／1回) 個体差健康科学への誘い (24 千葉芳広／1回) 個と社会：幸せをさがして (29 半田祐二郎／1回) 個と社会：健康な個人が健康な社会を作る (45 坂野雄二／1回) 個の健康と環境：心の健康とストレス (65 大澤宜明／1回) 個の健康と環境：環境と免疫応答 (46 中山英二／1回) 個の健康と環境：生活環境とあごの健康 (57 太田 亨／1回) 遺伝子と個体差医療：遺伝子は変えられないのか？ (66 浜上尚也／1回) 遺伝子と個体差医療：遺伝子から見る個体差 (58 北市伸義／1回) 遺伝子と個体差医療：遺伝子と病気のかかりやすさ (64 荒川俊哉／1回) 遺伝子と個体差医療：オーダーメイド再生医療の近未来 (79 松田一郎／1回) 遺伝子と個体差医療：遺伝子時代の生命倫理 (48 向谷地生良／1回) 個のためのケア：「当事者研究」の可能性 (47 小林正伸／1回) 個のためのケア：医療は何のためにあるのか？ (1 新川詔夫／1回) まとめ：新医療人をめざして	オムニバス方式
	医療倫理（医療倫理）	医療倫理とは、医療従事者と患者との間を調整するためのルールと定義されている。伝統的な医の職業倫理に、バイオエシックスという患者・社会の視点、研究倫理が加わり、新しい医療倫理を支える学問が発展しつつある。即ち、現代における医療倫理とは「医療が行われる際に守られるべきルール、相応しい行われ方」であり、そして医療倫理学とは、将来、高度の医療専門職業人を目指す学生諸君が「その医療倫理を支える学問」と積極的に認識するものである。	
	地域連携（地域包括ケア演習）	本学が所在する当別町をはじめ、北海道内の様々な地域の地域ケア関係機関との協働のもと、人々が住みなれた地域で安心して暮らせるような取り組みを試行的に行う。専任教員の指導のもと、各グループに分かれて、試行的事業の立案、関係機関への事業提案、事業の試行的実施、振り返りといった一連の過程の経験を通じて、地域包括ケアのイメージを具体化させるとともに、地域包括ケアに対するセラピストの参画意義について考察を行う。	
	地域連携（メディカルカフェをつくるⅠ）	市民と専門家との双方向コミュニケーションの「場」となる「メディカル・カフェ」を企画・設計し、実施に向けて活動を行う参加型形態の授業である。多様な医療職種を目指す本学の学生からなるグループのもとで、互いに協働して、医学・医療・健康などをテーマとする市民参加型のイベントを地域と連携して開催する。さまざまな主体的な活動体験を通じて、医療専門家のコミュニティワークに必要なコミュニケーションおよびイベント運営などに関するスキルを学ぶ。	集中
	多職種連携（多職種連携論）	医学的な視点のみならず、対象者の社会的・心理的な視点にも配慮した医療が求められる中でチーム医療は必須の手段であり、より良いリハビリテーションを実践するためには多職種との有機的な連携と協業は欠かせない。本講義では、専門職種間の有機的な連携と協業についての基礎知識や理論、連携のためのマネジメントの実際についてそれぞれの専門的な立場から考察し、多職種連携が果たす役割や機能について学ぶ。	
専門基礎科目	解剖学Ⅰ	解剖学は人体を対象とした学問体系の中で最も基礎的な学問であり、解剖学Ⅰでは人体の基本構造を骨格系などの10器官系統別に学ぶ。さらに各器官系の知識を整理統合することにより、人体に特徴的構造が生命の維持に不可欠な構造であると同時に、各臓器の構造が生命維持に必要な機能を反映したものであることを理解する。 (オムニバス方式／全15回) (8 高橋尚明／9回) 骨格系、筋系、神経系、感覚器系、循環器系、呼吸器系 (35 坂倉康則／3回) 消化器系、泌尿器系 (36 入江一元／3回) 生殖器系、内分泌系	オムニバス方式

(リハビリテーション科学部 作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	解剖学Ⅱ	解剖学Ⅱでは、今後学ぶ運動学や病理学をはじめ評価学や日常生活活動学など、理学療法や作業療法学を学ぶために必要な臨床的知識を支える科目として位置づけ、解剖学Ⅰで学んだ人体構造の系統別知識をさらに詳細に修得する。特に、骨格系、筋系、神経系、循環器系、呼吸器系の5器官系の知識をリハビリテーション科学的な視点から深く掘り下げ、系統別機能解剖学を含む講義を行う。 (オムニバス方式/全15回) (8 高橋尚明/13回) 骨格系、筋系、神経系、循環器系、呼吸器系、運動機能系 (35 坂倉康則/1回) 骨格系総論 (36 入江一元/1回) 筋系総論	オムニバス方式 講義28時間 演習2時間
	解剖学実習	解剖学ⅠおよびⅡで修得して系統解剖学的知識を改めて整理統合し、人体の三次元的な構造としての知識を実際の臓器に触れることを通して定着させる。特に、上肢と下肢を中心とした運動器の構造およびそれらの支配神経の走行経路について、生体に照らしてより詳細に理解し説明できるようにする。加えて、「人の死」をみつめることで、生命の尊厳と医の倫理について考察できる力を培う。	
	生理学Ⅰ	多細胞生物である「ヒト」は、個として「生きる」ため、自らを構成する細胞の一つ一つに必要な栄養と酸素を供給し利用する多くの生理機能を有する。これらの生理機能の中、神経機能(脳と脊髄機能)、感覚機能(体性感覚、内臓感覚、視覚、聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚)、運動機能、血液機能(免疫機能を含む)について学び、解剖学の知識を加え、ヒトの「生きる仕組み」の基本を理解する。「運動学Ⅰ」、「運動学Ⅱ」、「神経学」、「高次脳機能障害学」などの基礎となる科目である。	講義26時間 演習4時間
	生理学Ⅱ	「生理学Ⅰ」に引き続き、「ヒト」が個として「生きる」ために必要な生理機能の中、循環機能(心臓および血管機能)、呼吸機能、栄養素の消化吸収機能、尿生成と排泄機能、体温調節機能、内分泌機能、生殖機能について学び、解剖学の知識を加え、ヒトの「生きる仕組み」の基本を理解する。ヒトの生理機能は、運動、成長発達、加齢、疾病、薬剤などにより変化する。「生理学Ⅰ」と共に、「運動生理学」、「老年学」、「人間発達学」、「病理学」、「内科学」、「薬理学」などの基礎となる科目である。	講義26時間 演習4時間
	生理学実習	生理学Ⅰおよび生理学Ⅱにおいて学んだ「ヒトの生理機能」に関する知識をもとに、学生自らが被験者となり、ヒトの生理機能の中、循環機能(血圧測定、心電図)、呼吸機能(電子スパイログラム)、神経機能(脳波測定)、感覚機能(体性感覚、視覚、味覚)、消化機能(咀嚼能力測定)、内分泌代謝機能(糖負荷、血糖測定)などを実習し、「ヒトの生理機能」についての知識理解を深める。加えて、実習レポートの作成および実習発表会を行うことにより、実習結果の考察およびプレゼンテーション技術を習得する。	
	運動生理学	解剖学や生理学および各実習において学んだ「ヒトの身体構造および生理機能」を基礎として、活動状態(運動時)および不活動状態(非運動時)における身体の構造および機能的特性を体系的に理解する。特に、運動時および非運動時の筋骨格系、神経系、呼吸循環系および内分泌代謝系の生理学的機能や特性、その適応変化について学ぶことで、医療現場や健康増進活動、スポーツ現場において必要とされる運動生理学の基礎知識を身につける。	講義20時間 演習10時間
	運動学Ⅰ	本授業科目では、身体運動を理解するうえで必要な運動器(筋骨格系、神経系)の基本構造と機能を学ぶ。さらに、身体各部位における関節の構造と機能を関節運動と関連づけて学習し、機能解剖学的視点から四肢ならびに体幹運動の仕組みについて理解を深める。	講義20時間 演習10時間
	運動学Ⅱ	本授業科目では、生体力学の基礎知識を身につけ、姿勢や身体運動の仕組みを力学的視点から理解できるようにする。また、その発現と制御過程、運動技能の発達と学習について、神経生理学ならびに心理学的視点から学習する。	講義20時間 演習10時間
	運動学実習	本実習では、「運動学Ⅰ」および「運動学Ⅱ」で身につけた知識をもとに、種々の身体運動・動作を実際に観察、計測することを通して、身体運動・動作の仕組みについて理解を深める。また、その際に用いられる観察、計測手法を学び、身体運動・動作を分析する基礎能力を身につける。実習はテーマ毎に小グループに分かれて行い、分析結果をグループ内で討議してレポートにまとめる。	

(リハビリテーション科学部 作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	老年学	<p>老年期にある人を理解するために、加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化と老年期に特徴的な疾患による生活への影響について学ぶ。さらに、高齢者を支援するための権利擁護の視点や、包括的なチームアプローチについて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(38 山田律子/4回) 加齢と老化、加齢に伴う心身の変化、老年期の発達課題、高齢者への支援等について学ぶ。 (55 萩野悦子/4回) 高齢者の権利擁護、高齢者の生活等について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	人間発達学	<p>誕生から死までの全生涯を通して、人間がどのようにして発達していくのか、またどのような要因が発達に影響するのかを教授する。人間発達を理解する上で重要となる理論背景について学習し、また人間の発達を、胎児期から乳幼児期、成人期といったライフステージからの視点、形態・機能的側面からの視点、さらには認知的および情緒・社会的側面からの視点をもとに学習し、人間の発達に対する総合的な理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(6 堀本佳音/4回) 人間の発達に関する基本的な理論を説明し、また人間発達について、ライフステージ(胎児期から乳幼児期)および形態・機能的側面から解説する。 (25 木村恵/4回) 人間の発達を、ライフステージ(幼児期から成人期)および認知的、情緒・社会的側面から解説する。</p>	オムニバス方式
	医学概論	<p>これから学ぶ医学系授業のオリエンテーションとして、当学部で医学を学ぶ意義と目的、21世紀に至る医学の進歩を概観し、特に、放射線物質、ワクチンや抗生物質、遺伝子の二重らせん構造、プリオン蛋白など、重要な医学上の発見の今日的意義について解説する。医学の社会的普及を目的とする医療に関しては、倫理としてのインフォームド・コンセントの歴史的意義、今日に至る疾病構造の変化と治療目標の変化、21世紀の保健医療の課題および法・制度や行政政策について国際的に比較しつつ学ぶ。</p>	
	病理学	<p>病理学は、病気の成り立ちを探究する学問であり、医療従事者にとって不可欠な学問である。生理学などで学習した正常な細胞、組織、器官の形態が病気によってどのように変化するか、または、正常な生体機能が障害された場合、どのような病態に進展するかを学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(39 安彦善裕/4回) 病因論、代謝障害、炎症・感染症、免疫と免疫異常 (69 山崎真美/4回) 増殖と修復、循環障害、腫瘍、遺伝性疾患・奇形</p>	オムニバス方式
	整形外科学	<p>骨・関節・神経・筋組織をはじめとする運動器に発生する主な外傷および疾患について、病態生理、症候、予後、診断方法、一般的治療法、さらにはリハビリテーション医療への展開について整形外科的観点から学習する。これらを通じて、理学療法および作業療法を実践するうえで必要となる整形外科疾患の基礎的知識と治療概念を習得する。</p>	
	内科学	<p>内科疾患の系統分類に従い、解剖学、生理学、生化学および薬理学の関連事項をふまえ、総論・各論と講義を進める。理学療法および作業療法で最低限必要な内科疾患の病理的背景や概念、および内科的治療による影響などを解説すると共に、一般的医学知識としての内科学、特に生活習慣病について重点的に講義を行なう。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(40 家子正裕/5回) 内科学総論、血液学、アレルギー・膠原病学、感染症・中毒 (56 高橋伸彦/5回) 内分泌代謝学、消化器学(含:肝胆膵)、腎臓学 (41 伊藤昭英/2回) 呼吸器学 (62 岸本憲明/3回) 循環器学</p>	オムニバス方式
	神経学	<p>主な神経疾患(神経難病を含む)の原因と病態、症状と神経徴候、経過と予後、診断と治療、リハビリテーションとケアについて学ぶ。特に、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症などの神経変性疾患、出血や梗塞などの脳血管疾患、脳外傷や脊髄損傷、神経腫瘍、多発性硬化症などの脱髄性疾患、ウイルス性脳炎やプリオン病などの感染性疾患、進行性筋ジストロフィー症や多発性ニューロパチーなどの神経筋疾患、水俣病や一酸化炭素中毒などの中毒を中心に解説する。</p>	

(リハビリテーション科学部 作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	小児科学	小児は、出生時から思春期に至るまで、身体・神経の発達の段階で、さまざまな疾患や発達障害を生ずる。また、出生直後の新生児の病態は、その後の生涯の生活に影響する。小児の理学療法を学ぶためには、小児の出生からダイナミックに変化する正常発達と、それぞれの障害・疾患を理解してはならない。新生児・乳幼児・学童・思春期における正常と病態を理解し、小児保健学、小児診断学、小児疾患病態学などの知識を修得する。	
	精神医学Ⅰ	総論として精神医学の概念と歴史、精神障害の成因と分類（ICD、DSM）、画像や精神医学的診察、画像などの診断法、心理検査や各種の評価尺度、主な精神症状と症候群の特徴について学ぶ。疾病論はICD-10に基づき、器質性精神障害（症状性を含む）、精神作用物質性精神障害（アルコール、薬物、タバコ）、統合失調症、気分障害（うつ病や躁うつ病）、てんかんについて、病因・病態、診断と評価、症状および障害特性、経過と予後、治療とリハビリテーションなどについて学ぶ。	
	精神医学Ⅱ	「精神医学Ⅰ」に引き続いて、神経症性障害とストレス関連障害、摂食障害、非器質性の睡眠障害、パーソナリティ障害、性同一性障害、精神遅滞、心理的発達障害、情緒と行動の障害などの小児・青年期の精神障害について、病因・病態、診断と評価、症状や障害特性、経過と予後、治療とリハビリテーションについて学ぶ。老年期精神障害の特徴、リエゾン精神医学とチーム医療、精神保健福祉法と精神科保健医療、地域福祉と就労支援施策、心神喪失者観察法などについても併せて学ぶ。	
	病態運動学	理学療法・作業療法の対象となる運動や動作の障害は、筋や骨関節といった効果器の障害によるものから、脊髄や小脳などの下位運動中枢、一次運動野や補足運動野、運動前野といった上位中枢の神経障害によるものまで幅広い。本科目では疾病や外傷などにより生じた運動障害や異常歩行などの動作障害について、その特徴および発生メカニズムについて基本的知識を習得するとともに、運動学的分析手法について学習する。 (オムニバス方式／全15回) (5 吉田晋／7回) 筋力低下、痛みといった一般的な病態および脳卒中やパーキンソン病、小脳疾患などによる運動障害や姿勢調節障害について講義および演習を担当する。 (7 武田涼子／4回) 骨折や変形性関節症などの運動器障害による運動障害について講義および演習を担当する。 (6 堀本佳音／4回) 脳性麻痺、筋ジストロフィーなどの発育発達期に発生する運動障害について講義および演習を担当する。	オムニバス方式 講義20時間 演習10時間
	高次脳機能障害学	高次脳機能とその障害に関わる歴史と概念、高次脳機能に関わる神経学的基盤と大脳半球の左右差、脳血管障害と外傷性脳損傷、他の脳疾患に出現する高次脳機能障害の特徴について解説する。次いで、失語・失行・失認など、臨床場面で遭遇する主な高次脳機能障害に関して、原因と病態、症状と分類、評価法、治療とリハビリテーションについて、事例の検討を含めて学ぶ。さらに、高次脳機能障害支援事業や当事者団体の活動など、医療や地域ケア、福祉制度の動向についても学ぶ。	
	臨床心理学	臨床心理学は、さまざまな問題の理解と解決に心理的要因が大きく関与していると思われる個人を心理学的な立場から理解し、問題解決を図ろうとする学問である。臨床心理学を支える理論にはさまざまなものがあるが、近年は認知行動的な立場から問題を理解し解決を図る行動理論に基づく考え方が主流となっている。本講義では、臨床心理学の基本的な考え方を概説するとともに、行動理論による問題の理解と解決方法を解説しながら、最新の臨床心理学の進歩について学ぶ。	
	薬理学	薬物の作用や副作用の発生機序などの薬物が生体に対して与える影響や、薬物の体内動態などの生体が薬物に与える作用に関する基礎的な知識を学習する。さらに、これらの基礎的な知識を臨床薬理的な視点で理解し、臨床面に結びつけ応用する能力を習得する。	
	公衆衛生学	公衆衛生学は健康に基礎をおいた保健科学の一領域であり、将来理学療法士、作業療法士として医療の分野で指導的立場になろうとする者が身につけるべき素養であり、必須の学科目である。この知識および技術の基礎を理解、習得し、あわせて人類の健康と福祉の向上に寄与する指導者としての責任感と社会性を身につけることが目的である。 (オムニバス方式／全8回) (43 千葉逸朗／4回) 序論、疫学、生活習慣病、栄養と健康、人口問題、社会保障制度 (63 水谷博幸／4回) 感染症の予防、環境と健康、地域保健、母子保健、学校保健、産業保健、高齢者保健	オムニバス方式

(リハビリテーション科学部 作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	栄養学	栄養は身体のエネルギー源であると同時に、身体の構成要素である。栄養は過剰でも不足でも心身機能に大きな影響を及ぼすため、リハビリテーションに求められる全人的な評価の一つの要素として患者の栄養状態を正しく評価することが求められている。本科目では、各栄養素の基本的な性質や働き、食事摂取基準や基本的な栄養評価方法を理解するとともに、身体における栄養の役割を学習し、医療者に求められる栄養学の基礎を構築することを目標とする。	
	リハビリテーション概論	リハビリテーション医学の基本的概念や特徴、各種障害像の分類、リハビリテーションの内容と方法を含めた基本的アプローチ（医学的、社会的、職業的、教育的）等について、その歴史や社会制度、リハビリテーションに携わる関連職種との連携を含めて総合的に学習する。またリハビリテーションの対象となる方たちを中心としたチーム医療体制や地域連携について討議を行い、ノーマライゼーションの概念を理解する。 (オムニバス方式／全15回) (17 上野武治／8回) リハビリテーションの概念および特徴、歴史的背景、社会制度および各障害像の分類等について講義する。 (2 泉唯史／4回) リハビリテーション医療の基本的アプローチおよび関連法、リハビリテーションに携わる関連職種の理解について、おもに身体障害領域の視点から講義する。 (15 鎌田樹寛／3回) リハビリテーション医療の基本的アプローチおよび関連法、リハビリテーションに携わる関連職種の理解について、おもに精神障害領域の視点から講義する。	オムニバス方式
	理学療法概論	理学療法の定義やリハビリテーションの枠組みの中での位置づけと役割、理学療法の対象や治療の流れのほか、理学療法士が活躍する、あるいは活躍が期待される分野、理学療法士のさまざまな学術分野や学術活動について講義する。また専門職としての理学療法士がさまざまな研究活動を行うことの重要性についても、カリキュラムの概要を説明しながら講義を行い、理学療法士に関連する法規、社会的役割、歴史、哲学、倫理も含めた理学療法を概観し、専門科目に向けた学習のための基礎知識を習得する。 (オムニバス方式／全15回) (2 泉唯史／8回) 理学療法の定義や概念、歴史的背景を中心に、理学療法分野の相対的枠組みについて講義を行う。 (4 鈴木英樹／7回) 理学療法の治療の対象や保健医療福祉領域における位置づけ、理学療法士の社会的役割などを中心に講義を行う。	オムニバス方式
	基礎理学療法学	理学療法の基礎的内容の紹介と理学療法士の役割について講義を行う。また理学療法分野における検査・測定に用いる機器について、使用目的と実際の使用方法について見学する。 (オムニバス方式／全15回) (5 吉田晋／3回) 脳血管障害、神経障害の理学療法、筋機能解析システム (3 小島悟／3回) 地域における理学療法、在宅支援、物理療法機器 (7 武田涼子／3回) 運動器障害の理学療法、3次元動作解析システム (8 高橋尚明／3回) 内部障害の理学療法、解剖学と理学療法、呼吸ガス分析システム (6 堀本佳誉／3回) 発達障害の理学療法、地域における発達障害支援	オムニバス方式
	保健医療福祉論	理学療法や作業療法実践の土台となる、わが国の保健、医療および福祉制度（公的介護保険制度、障害者自立支援法、難病患者等支援制度）の成り立ち、現状、課題、各制度間の関係性等についての理解を深める。また、地域医療の現状や課題、セラピストが果たす役割等について、北海道内各地での実践例を紹介し理解を深める。 (オムニバス方式／全8回) (4 鈴木英樹／5回) 公的介護保険制度、障害者自立支援法、難病制度の概説 (81 加賀谷芳夫／1回) 胆振地区での実践報告 (82 森茂樹／1回) 十勝地区での実践報告 (83 菊地啓介／1回) 北海道地域リハビリテーション広域支援センターでの実践報告	オムニバス方式

(リハビリテーション科学部 作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	障がい者当事者論	<p>身体的・精神的障がいを持ち、社会的支援を必要とする当事者や家族について、その生活の実態を把握する。また当事者のニーズに基づいた社会制度の活用方法を探り、差別・偏見を克服するための活動を学ぶことで、人間存在の多様性とエンパワメントの視点を有したリハビリテーション実践法を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(4 鈴木英樹/8回) 身体的な障がいを持ちながら地域で生活する当事者や家族の事例を通じ、当事者がかかえる潜在的ニーズや課題を導き出す方法を探る。</p> <p>(21 浅野葉子/7回) 精神的な障がいを持ちながら地域で生活する当事者や家族の事例を通じ、当事者がかかえる潜在的ニーズや課題を導き出す方法を探る。</p>	オムニバス方式
	積雪寒冷地の生活と諸問題	<p>北海道の風土と生活について理解を深めるため、道内各地域の個性ある風土から形成された産業、文化の特徴、生活上の諸問題を、具体的な事例をあげながら分析し、そのことを通じて地域理解と地域の課題解決のための糸口を学習する。また、積雪寒冷地が抱える生活課題を調査するとともに、その問題の解決方法について、関係機関と情報交換を行いながら具体的提案を行う。</p>	
専門科目	作業療法概論	<p>対象者個人を尊重し、心身の両面から「人が作業を出来るように援助するための考え方」を習得することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(15 鎌田樹寛/6回) 作業療法の歴史的発展を捉えて社会の変容のなかで、社会の変化に回答した医療・保健・福祉のなかでの作業療法の役割を概説し、作業療法の事例を紹介する。</p> <p>(16 本家寿洋/3回) 身体障害領域における作業療法の役割について概説し、事例を紹介する。また、障害者体験を通じ作業への参加や環境について考える。</p> <p>(19 浅野雅子、26 児玉壮志/2回) 精神障害領域における作業療法の役割について概説し、事例を紹介する。</p> <p>(21 浅野葉子/1回) 地域における作業療法の役割について概説し、事例を紹介する。</p> <p>(22 朝日まどか/1回) 慢性期疾患における作業療法の役割について概説し、事例を紹介する。</p> <p>(25 木村恵/1回) 小児領域における作業療法の役割について概説し、事例を紹介する。</p> <p>(23 澤村大輔/1回) 高次脳機能障害者への作業療法の役割について概説し、事例を紹介する。</p>	オムニバス方式
	職業倫理・管理学	<p>医療人として必要な生命倫理と一般社会における職業倫理について学ぶ。また、職場における管理業務として、経営管理学の視点による管理と、サービスの質を保証し公益性を優先する管理についての知識と実践を学習する。さらに、その管理業務にとって必要なリーダーとしての資質を、わが国における企業リーダーの成功者から学び、病院業務の中でどのようにリーダーシップを発揮していくかの実践を提供していく。</p>	
	作業療法技術学演習Ⅰ	<p>作業療法の治療手段として用いる代表的な作業活動を実際に経験することによって、臨床場面で作業活動を治療として実施するにあたり必要な知識や技術を身に付ける。また、各作業活動の特性を理解し、臨床場面での治療的応用(治療目的、治療適応となる対象者、期待される治療効果など)について考察する力を培う。なお、実際に授業で行う代表的な作業活動とは陶芸、タイルモザイク、七宝焼、革細工などである。</p>	
	作業療法技術学演習Ⅱ	<p>代表的な作業活動の経験を踏まえて、臨床場面で用いられている作業活動を体験し、作業活動と作業療法の関連性を理解することを目標とする。身体障害領域、精神障害領域、発達障害領域、老年期障害領域における病院や介護老人保健施設等で用いられている作業活動について体験し、その効用や機器・道具についてのリスク管理を学ぶ。</p>	
	作業療法研究法	<p>研究とは何かを知り、基本的な研究手法を学ぶ。また、報告された論文を科学的な態度で吟味し、研究に関する倫理感、客観的視点を習得することを目標とする。研究で用いられる諸概念を概説し、研究の過程や量的・質的研究について論じる。加えて、研究における倫理的問題について論じる。また、クリティーク・システムティックレビューについて、研究計画書の作成および報告書の書き方・発表の方法についても論じる。</p>	

(リハビリテーション科学部 作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	評価学概論	<p>作業療法で実施する評価の基本的な考えや目的、さまざまな評価方法を理解する。また、各領域における評価の考え方を知り、後期の評価学および評価学実習履修のための基盤を作る。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(22 朝日まどか/10回) 評価の目的や意義、評価方法、実施する上での留意事項など評価における概要を学習する。また、検査・測定の信頼性や妥当性、観察や面接の意義を理解する。さらに、高齢期における評価の考え方、日常生活活動の評価を理解する。</p> <p>(23 澤村大輔/2回) 身体障害、高次脳機能障害における作業療法評価の基本的考え方を知り、評価の目的、検査の実施手順、実施上の留意点について理解する。</p> <p>(25 木村恵/1回) 発達評価の基本的考え方を知り、基本的な子どもの発達評価法を挙げ説明できる。また発達障害における評価の実際を理解する。</p> <p>(26 児玉壮志/2回) 精神障害領域や職業関連領域における作業療法評価の基本的な考え方、目的や意義、主たる検査法、一連の流れを理解する。</p>	オムニバス方式
	身体機能評価学Ⅰ	<p>人間は、絶えず環境と交流しながら自分の身体の外側から様々な感覚情報を入力し、その情報を解釈し、動作として出力する過程を経て行動として表出される。この一連の過程のいずれの領域が障害されても身体機能に障害が生じる。本講義では、身体機能全般の障害を評価するために、心身機能や構造、活動、参加、個人因子、環境因子などの国際生活機能分類の観点に沿って各々の検査・評価法を学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(23 澤村大輔/5回) 心身機能や構造に関する検査・評価法を学習する。 (21 浅野葉子/5回) 活動および参加に関する検査・評価法を学習する。 (16 本家寿洋/5回) 個人因子・環境因子に関する検査・評価法を学習する。</p>	オムニバス方式
	身体機能評価学Ⅱ	<p>身体機能が障害される疾患は多岐にわたることから、作業療法においても、各々の疾患の特徴に基づいた検査・評価が必要となる。本講義では、身体機能評価学Ⅰで学習した検査・評価法には見られない、脳血管疾患、脊髄損傷、骨折、頭部外傷、心疾患、悪性新生物、呼吸器系疾患、関節リウマチ、パーキンソン病などの神経難病を中心とした各疾患に特有の検査・評価を学習していく。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(21 浅野葉子/5回) 脳血管疾患に関する検査・評価法を学習する。 (23 澤村大輔/5回) 骨折・頭部外傷に関する検査・評価法を学習する。 (16 本家寿洋/5回) 脊髄損傷・心疾患・悪性新生物・呼吸器疾患・リウマチ・パーキンソン病などの神経難病に関する検査・評価法を学習する。</p>	オムニバス方式
	精神機能評価学	<p>精神疾患や精神障害領域の各疾患に応じた作業療法評価法を習得する。本科目では、面接や観察の方法、情動、意欲や行動、精神機能、社会機能、認知機能などの評価法を学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(15 鎌田樹寛/3回) 認知症などにおける評価法について学習する。 (19 浅野雅子/8回) 統合失調症圏、気分障害などにおける評価法について学習する。 (26 児玉壮志/4回) 神経症圏、児童の精神障害などにおける評価法について学習する。</p>	オムニバス方式
	発達系評価学	<p>発達障害領域における作業療法士の役割と目的、評価する上で必要な視点、考え方を理解し、評価の過程、評価領域、実際の評価方法について学習する。運動面、上肢機能面、認知面、日常生活動作などの発達過程の理解を深め、正常発達の知識を作業療法に活用できるように学習し、発達障害におけるプログラムの立案のための基礎知識を身につける。また、発達障害における各疾患と障害像の知識を深めるとともに、その評価方法について学習する。</p>	
	評価学実習	<p>身体機能評価学、精神機能評価学、発達系評価学などで教授された作業療法における基本的評価方法について、実技を実施しながら、基本的な知識や技術を総合的に習得し、各領域の評価方法の統合的な解釈を学ぶ。さらに、2年次以降実施される臨床実習に必要なオリエンテーションの実施、および、臨床実習に必要な知識、技術、態度の確認や整理を行う。本実習は、評価技術(観察、面接、検査測定他)の確認のみならず、感染症対策やリスク管理、作業療法学生としての基本的態度やコミュニケーションが含まれる。</p>	

(リハビリテーション科学部 作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	画像診断学	人体を対象とした各種の非破壊画像診断技術（X線単純撮影、X線造影検査、X線CT、磁気を用いるMRIおよび放射性薬剤を用いる核医学診断技術など）の基本的原理や特徴、正常画像と疾患によるその構造変化、代表的な疾患画像の診断方法などについて講義を行い、一般医学診療および理学療法・作業療法の臨床現場において必要とされる医学画像情報を理解するための基本的知識を身に付ける。	
	日常生活援助学	作業療法を実施するために日常生活活動について理解し、日常生活活動の概念・評価方法を理解できるようになる。対象者の生活を作業療法士として援助するために、本人の能力だけでなく、本人を取り巻く環境等様々な要因の影響について考察できるようになる。 (オムニバス方式／全15回) (22 朝日まどか／6回) 日常生活活動（ADL）の概念や定義、また日常生活活動の各論を理解する。さらに、さまざまな日常生活活動の評価方法を知り、作業療法士としての支援の在り方を学ぶ。 (21 浅野葉子／6回) 日常生活活動の各論から福祉用具や住環境の基礎について学び、事例の理解を深める。 (83 菊地啓介／3回) 具体的な事例を通して、生活の中での日常生活活動について理解を深める。	オムニバス方式
	日常生活援助学演習	日常生活活動の工程分析や動作分析を通じて活動の特性や人間の諸機能との関連を学ぶ。さらに、これらの基礎的知識と疾病モデルとの関連から作業療法の支援方法とその技術を習得する。日常生活活動の観察と評価の視点を学ぶとともに、自助具の適応や作成・各疾患や各障害（中枢系疾患、神経・筋疾患、整形外科疾患、精神疾患、高次脳機能障害、認知症等）における日常生活活動の基礎についての理解を深める。	
	身体障害作業療法学	各々の疾患のどのような特徴が身体機能の障害を引き起こし、それが日常生活上の活動や参加にどのような制限を与え、そして精神を圧迫していくのかを学習する。また、作業療法の治療に関わる内容として、各々の疾患に対する急性期・回復期・維持期のリスク管理と基本的な治療戦略および技術を学習していく。さらに、脳科学に関する最新の人文科学領域および自然科学領域の知識やBMIの技術等も紹介していく。	
	身体障害作業療法学演習	身体障害作業療法学で学んだ知識や技術を元に、実際の臨床現場で応用するための治療方針や治療目標および治療プログラムを立案する演習を行う。具体的には、身体障害が生じてしまう様々な疾患を呈する事例を提示し、少人数のグループで討議し、発表し、教員のフィードバックを通じて、作業療法の治療に対する問題解決能力を向上させていく。さらに、身体障害作業療法学で紹介した脳科学やBMIなどの技術を使用し、新たな治療を創造する演習も合わせて実施していく。	
	精神障害作業療法学	精神障害に対する医療の歴史的変遷や障害の捉え方、精神障害領域におけるリハビリテーションの発展と作業療法が果たす機能と役割、作業療法を構成する治療構造などを踏まえ、評価から治療、援助へ至る一連の作業療法の流れを理論的に学習し理解を深める。また、主たる対象疾患の臨床像を理解し、各疾患における適切な作業療法の評価法や治療、指導、援助内容、実践領域や場について理解を深め、各対象疾患における作業療法の役割を考察する。	
	精神障害作業療法学演習	精神障害作業療法学で学んだ知識をもとに対象者に対する障害の評価や治療技法について演習や実技を通して学ぶ。精神障害作業療法の評価では、情報収集や記録・報告、観察、面接、質問紙を用いた評価法の実践が出来ることを目的とする。治療技法については作業活動や集団療法、心理教育や家族支援、SSTなどについて目的や方法を理解し治療プログラムの立案が出来ることを目的とする。最終的には症例検討を通して作業療法の評価から治療という一連の流れを理解し、実践出来るようになることを目的とする。	
	発達障害作業療法学	発達系評価学で習得した知識をもとに発達障害における対象と障害像を理解し、作業療法士に求められる役割について学習する。また、ライフステージに沿った支援のあり方について理解を深めるとともに、遊びの発達について学習し、発達障害における遊びの役割について考え、治療に応用するための基本的知識を身につける。プログラムの立案から実際の作業療法の流れを知り、子どもを対象とする上での治療的関わりの持ち方について学習する。	
	発達障害作業療法学演習	発達障害の作業療法における治療の実際と支援方法について学習する。発達障害における作業療法での遊びの治療的応用とその効果について理解を深め、代表的な疾患、障害について、その臨床像における治療的視点、治療計画の立案、作業療法の実際を学習し、治療の基本的技術について演習を通して習得する。発達段階とその段階における発達課題を理解し、感覚、運動の側面から、玩具や遊具を用いた治療介入の仕方について実際に体験することにより理解を深める。	

(リハビリテーション科学部 作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	老年期障害作業療法学	老年期の対象者を理解するための包括的な講義として、特有な疾患、心理と病理、時代背景、諸制度、リスク管理、治療プロセスと評価法、アプローチ法、症例紹介などを解説する。老年期の対象者について、生物学側面・心理学的側面・社会学的側面から理解し、老年期作業療法の実践で用いられる基本的知識や技術を習得することを目標とする。	
	老年期障害作業療法学演習	老年期作業療法における評価方法や実践について演習を通し学ぶ。特に、認知症高齢者に対するコミュニケーション技法や集団アプローチ、レクリエーションの基礎的な知識や活用方法、また各種療法を演習により体験する。さらに、脳血管疾患やパーキンソン病などの高齢期に多い疾患に対するアプローチ方法を模擬体験や役割体験を通して理解を深める。	
	高次脳機能障害作業療法学	脳損傷後の高次脳機能障害の症状と発現メカニズムについて説明し、作業療法士として臨床で必要な各症状の評価、治療方法について概説する。授業は毎回事前の予習を必須とするよう課題を課す。 到達目標は以下の3点である。 1. 高次脳機能障害の症状、発現メカニズムおよび病巣について説明できる。 2. 高次脳機能障害に対する評価について説明できる。 3. 高次脳機能障害に対する治療について説明できる。	
	高次脳機能障害作業療法学演習	臨床場面で実践できるよう高次脳機能障害に対する神経心理学的検査、行動学的検査を実施し、その評価方法や結果の解釈について学習する。高次脳機能障害の症例を提示し、評価および治療についてグループごとのプレゼンテーション、ディスカッションなどを実施する。 到達目標は以下の4点である。 1. 高次脳機能障害例に対する神経心理学的検査を理解し、実施できる。 2. 症状に応じた適切な神経心理学的検査および行動学的評価を選定できる。 3. 神経心理学的検査および行動学的評価の結果を正しく解釈できる。 4. 症状に応じた治療方法を選定できる。	
	義肢装具学	義肢装具・スプリント・自助具に関する基本的な知識を学習し、義肢装具の機能と構造、適応、処方を理解する。 (オムニバス方式／全15回) (7 武田涼子／4回) 下肢装具に関する機能と構造、適応、処方について学習する。 (23 澤村大輔・8 高橋尚明・85 安田義幸・86 高橋慎／11回) 義肢装具・スプリント・自助具や身体との適応関係に関する基本的知識や、装具適応のメリット・デメリットに関する知識を学習する。さらに、上肢装具とスプリントに関する機能と構造、適応、処方について学習し、実際にスプリント制作を実施する。	オムニバス方式
作業適用学	作業療法の中核的概念である「作業」についての理解を深め、その基礎的適用方法について習得することを目標とする。 (オムニバス方式／全15回) (15 鎌田樹寛／10回) 作業療法における作業の歴史的な背景を踏まえた定義と分類、人が作業を通して獲得される「技能」や「遂行」および「参加」に関する生物・心理・社会・文化的関連性、作業の治療的応用についての理解、ならびに生活の質と作業療法の関連を学習する。 (15 鎌田樹寛、16 本家寿洋、19 浅野雅子、21 浅野葉子、22 朝日まどか、25 木村恵、23 澤村大輔、26 児玉壮志／5回) 講義を踏まえた関連論文からのグループ討論やプレゼンテーションを実施して理解を深める。	オムニバス方式	
音楽療法	人への援助技術として音楽を用いるための基礎知識を習得することを目的とし、近代音楽療法の歴史、音楽の療法的役割、領域別の音楽療法とその対象などについて学ぶ。また、音楽療法に必要な療法的音楽表現技術である基礎的な音および音の表現の意味理解などについて演習を通して体験する。同時に現在の音楽療法の位置づけを踏まえ、作業療法と音楽療法との関係、リハビリテーションへの活用方法を理解し、身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害の各領域において音楽療法がどのように用いられているのか実践例を通して学ぶ。		
ハンドセラピー	ハンドセラピーの定義や理念を学習し、末梢神経損傷や腱損傷および骨関節損傷におけるハンドセラピーの具体的な評価と治療を学習し、最新の治療技術を実際の事例に基づいて理解する。 1. ハンドセラピーの定義や理念および歴史を学習し、理学療法および作業療法におけるハンドセラピーの意義と重要性を理解する。 2. ハンドセラピーの具体的な評価と治療を、種々の疾患に基づいて学習する。特に、ハンドセラピーの対象疾患として、多くの臨床実績をあげている末梢神経損傷や腱損傷および骨関節損傷における評価と治療を学習する。	講義7時間 演習8時間	

(リハビリテーション科学部 作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	徒手療法論	理学療法および作業療法において、関節可動性の改善と疼痛の軽減に対する徒手治療手技として関節モビライゼーションが用いられる。本科目では、関節モビライゼーションの治療原理、関節機能障害や痛みに対する評価ならびにその基本的治療手技について講義と演習を通して学習し、症候に適した関節モビライゼーション手技を選択できる基礎能力を身につける。	講義 20 時間 演習 10 時間
	呼吸リハビリテーション学	呼吸器系疾患の病理および疾患概念を学び、それらの疾患に罹患した対象者の障害像を理解する。呼吸リハビリテーションを急性期と周術期、慢性期など対象患者の状況により分類し、必要な評価や症状に対するリハビリテーションアプローチを演習を通じて実践的に学び確認する。特に個々の評価項目が意味する事や、複数の評価項目の関連性について考察し、評価結果を総合的に統合解釈するとともにプログラムの立案を実施する。また、実際に用いるリハビリテーションアプローチについて、徒手のアプローチや運動療法を相互に実施し、相互の経験を通じて、実際の手技の方法ならびに、治療を行う際に考慮すべき事を学ぶ。	講義 10 時間 演習 5 時間
	神経筋促通治療論	理学療法・作業療法における治療方法の一つとして、神経生理学的アプローチがあげられる。本科目では、種々の神経生理学的アプローチの概念と理論について学ぶ。具体的には、PNF、CI療法、ボバースコンセプト、認知神経リハビリテーション等を取り上げて、その基本的な概念および理論、治療方法を紹介し、理学療法および作業療法への適用可能性について解説する。また、それらのアプローチ法における現状の科学的エビデンスレベルについても学習する。	
	園芸療法	花や野菜の播種、育苗から収穫までの基礎的栽培管理方法や植物を利用した活動として、クラフト作りなど園芸作業の一連の工程を体験学習する。また、園芸の特性や植物環境の効果、園芸のリハビリテーションへの活用方法、園芸療法について事例を通して学ぶ。同時に作業療法において園芸が用いられてきた歴史を概観し、作業療法と園芸療法の関係についての理解を深め、身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害の各領域において園芸療法がどのように用いられているのか実践例（文献）を通して学んでいく。	講義 7 時間 演習 8 時間
	地域作業療法学	地域リハビリテーション、地域作業療法の理念や目的、実践方法などを総合的に理解する。各障害領域（身体障害、精神障害、発達障害など）での地域関連活動について学ぶとともに、在宅や施設（介護保険施設や精神障害者授産施設・こども発達支援センターなど）での作業療法実践についての理解を深める。 (オムニバス方式／全 15 回) (22 朝日まどか／6 回) 地域リハビリテーションや地域作業療法の定義や目的を学ぶ。さらに地域で生活する高齢障害者に対する訪問作業療法や介護老人保健施設などでの作業療法の実践を学ぶ。 (21 浅野葉子／7 回) 介護保険事業所や介護保険施設・身体障害者施設などでの作業療法実践について学ぶ。 (83 菊地啓介／2 回) 行政機関や地域包括支援センターとの連携を通して、地域作業療法の理解を深める。	オムニバス方式
	地域作業療法学演習	地域作業療法学で学習したことをグループ演習や施設見学によってさらに深める。学内での集団活動演習、施設あるいは通所施設でのグループ実践、福祉用具や住宅改修などのプランニング、地域活動（サービス担当者会議や介護予防教室など）実習などを通して実践力を高めていく。	
	リハビリテーション工学	リハビリテーション工学を理解するために、その歴史、手法、および実際の使用例について講義する。特に、理学療法士、作業療法士に必要な人体の制御機能特性と情報処理特性などに関して生体工学、人間工学、脳科学を中心に講義し、その特性に適合した福祉機器の選定や開発、利用方法について学習する。 (オムニバス方式／全 8 回) (16 本家寿洋／4 回) リハビリテーション工学の歴史的背景およびその適応手法について、生体力学および人間工学の観点を中心に講義を行う。 (23 澤村大輔／4 回) 各疾患の障害特性に応じた医療および福祉機器開発と実際の利用方法について、脳科学の観点を中心に講義を行う。	オムニバス方式
	就業援助論	本講義では、職業リハビリテーションの背景、我が国の職業リハビリテーションの特徴、就業援助の評価、指導計画、環境調整、社会資源の利用、各サポートシステムの現状などを概説し、障害者の職業的リハビリテーションサービス全般について、その知識の習得を目標とする。加えて、就業援助に関わる作業療法士の役割について理解する。	

(リハビリテーション科学部 作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	介護技術方法論	介護を必要とする人々の生活ニーズを理解するとともに、「尊厳を保持」した「自立支援」の視点から介護技術を展開する。安全安楽な介護を提供するために、感染予防や介護従事者の健康・安全対策を理解する。具体的には、以下の3点を中心に理解することを目的とする。①利用者のニーズに沿って、日常生活動作の自立支援ができる。②チームアプローチの必要性と他職種との役割が理解できる。③利用者の安全確保と、介護従事者の健康管理の必要性が理解できる。 (オムニバス方式/全8回) (71 高橋由紀/4回) オリエンテーション(生活の視点・介護の歴史)、認知症ケア、介護を取り巻く状況、高齢者虐待・身体拘束 (70 池森康裕/4回) 衣服の着脱介護、食事の介護、排泄の介護、入浴の介護	オムニバス方式
	臨床見学	1年次前期という早期段階から作業療法の臨床場面を経験することで、社会人・職業人としての素養を身につけ、作業療法業務の一連の流れとその役割を理解し、専門職としてのアイデンティティや学習意欲を高める。	集中
	評価実習	作業療法士が関与する病院や施設等において、臨床実習指導者による指導・監督のもと、作業療法対象者に対して作業療法評価を実施する。身体機能評価学Ⅰ・Ⅱ、発達系評価学、精神機能評価学など専門科目で学んだ知識をもとに、対象者や家族、多職種からの情報収集、観察や面接、検査や測定、記録や報告等を適切に実施し、収集した情報を統合していく過程を通して対象者の全体像や問題点を把握する。	
	総合臨床実習Ⅰ	1年次の臨床見学、2年次の評価実習での経験、身体障害作業療法学、発達障害作業療法学、精神障害作業療法学等の専門科目で学んだ知識をもとに、作業療法の評価、治療計画の立案、作業療法の実施等一連の過程を総合的に行う実習である。さらに、再評価を行うことで作業療法の介入効果を検証し、作業療法計画を再考する。なお、実習は臨床実習指導者による指導・監督のもと、総合病院や各領域(身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害等)の専門病院で行う。	
	総合臨床実習Ⅱ	総合臨床実習Ⅰの経験をふまえ、臨床実習指導者による指導・監督のもと、作業療法評価から治療・再評価に至る一連の過程を通して、専門職としてのさらなる資質向上を目指し、知識や技術を深化する実習である。また、機能回復を目的とするだけでなく、対象者を全人的に理解した上で治療計画を立て、実施する。なお、実習は、総合病院や各領域(身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害等)の専門病院で行う。	
	作業療法学総合講義	4年間の学習総まとめとして、作業療法およびリハビリテーションに関する知識と技術を整理し、統合的な能力を培う機会とする。これまで学習した知識と技術について、基礎・臨床医学系領域を統合した知識および専門領域の知識として定着させるため、教科書や参考書、過去5年間の国家試験問題などを資料として用い、グループワークなどを通じて確実なものにしてゆく。学科の全教員が担当する。	
	作業療法研究セミナーⅠ	前期では、疾患や症例、専門性に対する理解を深めることを目的に、少人数ゼミ形式による、文献を通して学習する機会とする。内容として、検索方法、文献の読み方を学習し、これまで学習してきた基礎知識と統合・解釈することを学習する。講義およびグループ学習の組み合わせで行う。後期では、総合臨床実習に備えた疾患や症例についての幅広い理解を目的に、文献や症例検討集をもとに少人数ゼミ形式による問題解決型学習を体験し、理解を深める。加えて、臨床実習に必要な知識や技術、態度について総合的な確認を行う。評価実習の実施経験を基に討議しながら各々の課題等を明確にし、改善のための取り組みを行う。さらには、総合臨床実習での到達目標をより意識して、評価、作業療法計画・実施を主眼においた演習を展開する。小グループでの演習や全体講義では、学科教員全員が担当する。	
	作業療法研究セミナーⅡ	研究論文の作成を行う。ゼミ単位で各担当教員を配置し、担当教員の指導の元に研究論文を作成していく。研究論文の作成は、トピックを見つけることから開始し、研究疑問の洗練と研究背景の展開、文献レビュー、研究法の選択、データ収集、データの分析、結果、考察に至るまでの作業を、ゼミ内でのディスカッションを重視して進めていく。特に、トピックを見つけることや研究疑問の洗練には時間をかけ、臨床に直結する学生の創造性を鍛錬していく。	